

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

《省令で定める単位数等の基準数相当分》

ハッピー製菓調理専門学校
衛生専門課程 パティシエ科

NO	授業科目名	担当教員	実務経験	開設期	授業時間数
1	製菓実習	小沼 善裕・石田 祐基 菊池 孝・石井 美春 他 外部講師	ホテルやパティスリーでのパティシエやブーランジェとして製菓、製パンの製造に携わる。また、外部講師については現役パティシエ、ブーランジェであり、自身経営のパティスリー等の経営、運営に携わっている。	1年	480時間

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

《省令で定める単位数等の基準数相当分》

ハッピー製菓調理専門学校
衛生専門課程 調理師科

NO	授業科目名	担当教員	実務経験	開設期	授業時間数
1	調理実習（西洋）	白熊 佳和・今井 康隆・伊藤 芳浩・高橋 麻衣子・他外部講師	ホテル、レストラン等飲食業界において、シェフとして献立作成、計数管理、衛生管理、人材育成等に携わった経験有。	1 年前期・後期	120 時間
2	調理実習（日本）			1 年前期・後期	90 時間
3	調理実習（中国）			1 年前期・後期	90 時間
					授業時間合計 300 時間

科目名	衛生法規		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	先崎 仁思		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	憲法などの法の種類を学び、製菓衛生師法をふくむ食品衛生に関連する様々な法律の理解を深めます。また、衛生法規は、製菓衛生師試験の出題科目です。合格を目指し、得点力を高める講義を目指します。		
到達目標	製菓衛生師国家試験合格		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書（日本菓子教育センター）、製菓衛生師教本（上下巻）（全国製菓衛生師養成施設協会）		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	第1章 法学大意 第1節 法学に関する基礎的事項	社会生活の秩序と規律、法と他の社会規範、法の種類、衛生法規の意義、衛生法規の分類
2	2	第1章 法学大意 第2節 法学に関する基礎的事項	法の種類、衛生法規の意義、衛生法規の分類
3	3	第2章 衛生行政概説 第1節 行政に関する基礎的事項	現状の衛生法規の概要、国家とは、行政機構
4	4	第2章 衛生行政概説 第1節 わが国の衛生行政機構	国と地方の行政、衛生とは、衛生行政とは
5	5	第3章 製菓衛生師法 第1節 製菓衛生師法の沿革	衛生行政の歴史、衛生行政の種類、衛生行政の組織
6	6	第3章 製菓衛生師法 第1節 製菓衛生師法の沿革	厚生労働省の機構と役割、地方の衛生行政機構、製菓衛生師法の沿革
7	7	第3章 第2節 製菓衛生師法の概要	製菓衛生師法の目的、製菓衛生師試験
8	8	第3章 第2節 製菓衛生師法の概要	製菓衛生師の免許及び登録
9	9	第3章 製菓衛生師法 第2節 製菓衛生師法の概要	製菓衛生師の免許及び登録、製菓衛生師法（抄）
10	10	第3章 製菓衛生師法 第2節 製菓衛生師法の概要	製菓衛生師法（抄）
11	11	第3章 製菓衛生師法 第2節 製菓衛生師法の概要	製菓衛生師法施行令（抄）
12	12	第3章 製菓衛生師法 第2節 製菓衛生師法の概要	製菓衛生師法施行規則（抄）
13	13	第4章 関係法令 第1節 食品安全基本法の概要	製菓衛生師法制定に関する陳情書
14	14	第4章 関係法令 第1節 食品安全基本法の概要	食品安全基本法（総則）
15	15	第4章 関係法令 第1節 食品安全基本法の概要	食品安全基本法（総則）、同（施策の策定に関する基本的な方針）
16	16	第4章 関係法令 第1節 食品安全基本法の概要	同（食品安全委員会）、食品衛生法の目的、食品衛生法の用語の定義
17	17	第4章 関係法令 第2節 食品衛生法の概要	食品及び添加物、添加物等の販売等の禁止
18	18	第4章 関係法令 第2節 食品衛生法の概要	食品等の規格・基準と総合衛生管理製造過程、器具及び容器包装の規格基準、表示の規制
19	19	第4章 関係法令 第2節 食品衛生法の概要	表示の規制、報告の要求・臨検・検査・収去、食品衛生監視員による監視指導
20	20	第4章 関係法令 第2節 食品衛生法の概要	公衆衛生上講ずべき措置の基準（管理運営基準）
21	21	第4章 関係法令 第2節 食品衛生法の概要	食品等事業者が実施すべき管理運営基準に関する指針（ガイドライン）
22	22	第4章 関係法令 第2節 食品衛生法の概要	食品等事業者が実施すべき管理運営基準に関する指針（ガイドライン）
23	23	第4章 関係法令 第2節 食品衛生法の概要	施設基準、営業許可、営業者に対する行政処分、食中毒調査、食品衛生推進員、
24	24	第4章 関係法令 第2節 食品衛生法の概要	準用、罰則、洋生菓子の衛生規範等
25	25	第4章 関係法令 第3節 その他の衛生関係法令（概要）	洋生菓子の衛生規範等
26	26	第4章 関係法令 第3節 その他の衛生関係法令（概要）	洋生菓子の衛生規範等
27	27	第4章 関係法令 第3節 その他の衛生関係法令（概要）	食品表示法
28	28	第4章 関係法令 第3節 その他の衛生関係法令（概要）	食品表示法
29	29	第4章 関係法令 第3節 その他の衛生関係法令（概要）	地域保健法、感染症予防法
30	30	第4章 関係法令 第3節 その他の衛生関係法令（概要）	健康増進法、食育基本法
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	公衆衛生学		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期30時間・後期30時間
担当者	先崎 仁忠		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	自分が風邪をひかないために毎日うがいを欠かさないと個人衛生であり、クラスみんなが風邪をひかないようにするために、自分になにができるかを考えることは、公衆衛生につながります。その公衆衛生を学問的、巨視的にとらえようとする考え方が公衆衛生学です。職員全体の心身の健康に配慮する必要がある製菓衛生師にとって、公衆衛生学は、深く知っておくべき学問です。公衆衛生学は、製菓衛生師試験の出題科目です。合格を目指し、得点力を高める講義を目指します。		
到達目標	製菓衛生師国家試験合格		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書 (日本菓子教育センター)、製菓衛生師教本(上下巻)(全国製菓衛生師養成施設協会)		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	第1章 公衆衛生学の概要 第1節 公衆衛生の意義	公衆衛生の定義
2	3・4	第1章 公衆衛生学の概要 第1節 公衆衛生の意義	公衆衛生の歴史
3	5・6	第1章 公衆衛生学の概要 第2節 公衆衛生の現状	公衆衛生行政、公衆衛生行政の制度
4	7・8	第1章 公衆衛生学の概要 第2節 公衆衛生の現状	保健所・保健センターの機能
5	9・10	第1章 公衆衛生学の概要 第3節 衛生統計	人口統計
6	11・12	第1章 公衆衛生学の概要 第3節 衛生統計	人口統計
7	13・14	第1章 公衆衛生学の概要 第3節 衛生統計	疾病統計
8	15・16	第1章 公衆衛生学の概要 第3節 衛生統計	疾病統計
9	17・18	第2章 環境衛生 第1節 環境衛生の意義	空気
10	19・20	第2章 環境衛生 第1節 環境衛生の意義	空気
11	21・22	第2章 環境衛生 第1節 環境衛生の意義、第2節 環境と健康	光、水、水道
12	23・24	第2章 環境衛生 第1節 環境衛生の意義、第2節 環境と健康	光、水、水道
13	25・26	第2章 環境衛生 第2節 環境と健康	水道、下水道、清掃及び廃棄物処理
14	27・28	第2章 環境衛生 第2節 環境と健康	ねずみ族・衛生害虫などの駆除、その他の生活衛生
15	29・30	第2章 環境衛生 第2節 環境と健康、第3節 公害	その他の生活衛生
16	31・32	第2章 環境衛生 第2節 環境と健康、第3節 公害	菓子製造施設の環境衛生、大気汚染
17	33・34	第3章 疾病の予防 第1節 感染症の予防	水質汚濁、騒音
18	35・36	第3章 疾病の予防 第1節 感染症の予防	その他の公害、感染症と病原体
19	37・38	第3章 疾病の予防 第1節 感染症の予防	感染症と病原体
20	39・40	第3章 疾病の予防 第1節 感染症の予防	感染症の起こる三条件
21	41・42	第3章 疾病の予防 第1節 感染症の予防	感染症の予防対策
22	43・44	第3章 疾病の予防 第1節 感染症の予防	感染症の予防対策
23	45・46	第3章 疾病の予防 第2節 生活習慣病の予防	経口感染症の予防の実際
24	47・48	第3章 疾病の予防 第2節 生活習慣病の予防	生活習慣病の予防、循環器病
25	49・50	第3章 疾病の予防 第2節 生活習慣病の予防	循環器病、がん、その他の生活習慣病
26	51・52	第3章 疾病の予防 第2節 生活習慣病の予防	生活習慣病の予防と菓子成分
27	53・54	第4章 労働衛生 第1節 労働と健康、第2節 安全衛生管理	作業環境と健康、作業方法と健康
28	55・56	第4章 労働衛生 第1節 労働と健康、第2節 安全衛生管理	職業病と労働災害
29	57・58	第4章 労働衛生 第2節 安全衛生管理	安全衛生管理体制、環境管理、作業管理、健康管理、衛生教育
30	59・60	第4章 労働衛生 第2節 安全衛生管理	心身両面にわたる健康保持増進対策と快適職場形成菓子製造施設における労働安全衛生
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	食品学		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期30時間・後期30時間
担当者	澤田 江里子		
実務経験	有	実務経験内容	管理栄養士として病院で栄養指導、献立作成、調理業務管理、食品衛生管理を担当。
講義概要	<p>飲食業を目指すものとして、日々私たちが食している食品がどのようなものか知っておくことが大切です。食品は生命維持に欠くことのできないもので、健康の維持・増進、生活習慣病と密接な関係にある食品について理解することが必要です。製菓材料は食品でありその成分を知ることにより、特徴や動きをより理解することで、洋菓子作りに生かすのが目的です。</p>		
到達目標	2年次製菓衛生師国家試験受験・合格のための基礎知識の習得		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書 (日本菓子教育センター)		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	食品学の概要 ①	食品学とは・食品の機能と条件 ①
2	3・4	食品学の概要 ②	食品学とは・食品の機能と条件 ②
3	5・6	食品の条件 ①	一般成分・嗜好成分・有害成分 ①
4	7・8	食品の条件 ②	一般成分・嗜好成分・有害成分 ②
5	9・10	食品の種類と成分 ①	食品成分値・食品成分表 ①
6	11・12	食品の種類と成分 ②	食品成分値・食品成分表 ②
7	13・14	食品の種類と成分 ③	食品の持つエネルギー・栄養価値の判断基 ①
8	15・16	食品の種類と成分 ④	食品の持つエネルギー・栄養価値の判断基 ②
9	17・18	食品の分類と特性 ①	穀類・米・麦類・その他の雑穀 ①
10	19・20	食品の分類と特性 ②	穀類・米・麦類・その他の雑穀 ②
11	21・22	食品の分類と特性 ③	芋及びデンプン類・豆類・種実類・野菜類・果実類 ①
12	23・24	食品の分類と特性 ④	芋及びデンプン類・豆類・種実類・野菜類・果実類 ②
13	25・26	食品の分類と特性 ⑤	キノコ・藻類・魚介類・肉類 ①
14	27・28	前期期末試験・食品の分類と特性⑥	前期期末筆記試験 キノコ・藻類・魚介類・肉類 ②
15	29・30	試験結果フォローアップ	前期期末試験フォローアップ、前期のまとめ
16	31・32	前期復習・食品の分類と特性 ⑦	卵類
17	33・34	食品の分類と特性 ⑧	卵類・乳類・油脂類・嗜好飲料類 ①
18	35・36	食品の分類と特性 ⑨	卵類・乳類・油脂類・嗜好飲料類 ②
19	37・38	食品の分類と特性 ⑩	調味料・調理加工食品類・微生物応用食品 ①
20	39・40	食品の分類と特性 ⑪	調味料・調理加工食品類・微生物応用食品 ②
21	41・42	食品の変質とその防止 ①	自己消化・腐敗、変敗・酸化・食品の変質の防止 ①
22	43・44	食品の変質とその防止 ②	自己消化・腐敗、変敗・酸化・食品の変質の防止 ②
23	45・46	食品の保存方法 ①	物理的処理・細菌学的処理による方法
24	47・48	食品の保存方法 ②	化学的処理・総合的処理による方法
25	49・50	食品の生産と消費 ①	食品の消費構造の変化 ①
26	51・52	食品の生産と消費 ②	食品の消費構造の変化 ②
27	53・54	食品の消費 ②	生産の動向・有機農産物
28	55・56	食品の消費 ②	遺伝子組換え食品の生産と輸入・食品の流通と価格
29	57・58	後期期末試験	後期期末筆記試験
30	59・60	試験結果フォローアップ	後期末試験フォローアップ、前期のまとめ
[評価の方法]			
<p>必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。</p>			

科目名	食品衛生学		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期60時間・後期60時間
担当者	先崎 仁思		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	食品衛生学は、菓子を含む食品をいかに衛生的に保つことができるかを学ぶ学問であり、製菓衛生師にとって、とくに重要な分野です。食中毒の防止対策のほか、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌などの微生物、有害物質、ポジティブリスト制度、消毒法、食品の保存法、個人衛生、施設のあり方、営業者の責任、HACCP（ハサップ）、総合衛生管理製造過程等を学びます。食品衛生学は、製菓衛生師試験の出題科目です。合格を目指し、得点力を高める講義を目指します。		
到達目標	製菓衛生師国家試験合格		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書（日本菓子教育センター）、製菓衛生師教本（上下巻）（全国製菓衛生師養成施設協会）		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1～3	第1章 食品衛生学の概要 第1節 食品衛生の意義と現状	食中毒の分類
2	4～6	第2章 食中毒 第1節 食中毒の発生状況	年次推移
3	7～9	第2章 食中毒 第1節 食中毒の発生状況	季節変動
4	10～12	第2章 食中毒 第1節 食中毒の発生状況	微生物による食中毒
5	13～15	第2章 食中毒 第2節 食中毒の病因物質と予防対策	微生物による食中毒
6	16～18	第2章 食中毒 第2節 食中毒の病因物質と予防対策	微生物による食中毒
7	19～21	第2章 食中毒 第2節 食中毒の病因物質と予防対策	自然毒による食中毒（動物性自然毒、植物性自然毒）
8	22～24	第2章 食中毒 第2節 食中毒の病因物質と予防対策	自然毒による食中毒（動物性自然毒、植物性自然毒）
9	25～27	第2章 食中毒 第2節 食中毒の病因物質と予防対策	食中毒の予防、和菓子による食中毒の事例、洋菓子による食中毒の事例
10	28～30	第2章 食中毒 第2節 食中毒の病因物質と予防対策	食中毒の予防、和菓子による食中毒の事例、洋菓子による食中毒の事例
11	31～33	第2章 食中毒 第3節 菓子と食中毒、（食品衛生学実習）	「刻みのり」によって広域発生したノロウイルス大規模食中毒事件、（食品衛生学実習）
12	34～36	第2章 食中毒 第3節 菓子と食中毒、（食品衛生学実習）	「刻みのり」によって広域発生したノロウイルス大規模食中毒事件、（食品衛生学実習）
13	37～48	（食品衛生学実習）①	（食品衛生学実習）①
14	49～60	（食品衛生学実習）②	（食品衛生学実習）②
15	61～66	第4章 食品中における有害物質 第1節 生物濃縮と食物連鎖	生物濃縮と食物連鎖、重金属、放射性物質
16	67～71	第4章 第2節 農薬・動物用医薬品および飼料添加物の食品中の残留	放射性物質、有機塩素系農薬、PCB
17	72～74	第4章 第2節 農薬・動物用医薬品および飼料添加物の食品中の残留	ダイオキシン、残留農薬、残留動物用医薬品
18	75～77	第4章 食品中における有害物質 第3節 食品中の異物	残留動物用医薬品、残留飼料添加物、動物性異物
19	78～80	第4章 食品中における有害物質 第3節 食品中の異物	植物性異物、鉱物性異物、食品取扱いの三原則
20	81～86	第5章 衛生管理 第1節 食品の取扱い	食品取扱者の衛生
21	87～92	第5章 衛生管理 第1節 食品の取扱い	洗浄と消毒
22	93～95	第5章 衛生管理 第2節 施設・設備の要件と管理	施設の構造、食品取扱設備
23	96～98	第5章 衛生管理 第2節 施設・設備の要件と管理	食品の取扱い給水及び汚物の処理
24	99～101	第5章 衛生管理 第3節 営業者の責務	菓子製造業の施設基準と施設設備の構造
25	102～104	第5章 衛生管理 第4節 総合衛生管理製造過程	管理運営基準と施設設備の管理、HACCPによる衛生管理
26	105～107	第5章 衛生管理 第5節 食品の保存と表示、（食品衛生学実習）	HACCPによる衛生管理、菓子製造におけるHACCP、製品の保存、表示事項
27	108～111	第5章 衛生管理 第5節 食品の保存と表示、（食品衛生学実習）	アレルギー物質（アレルゲン）を含む食品の表示について、（食品衛生学実習）
28	112～120	年間のまとめ	総復習、期末試験、フィードバック
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	栄養学		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次・前期・後期	授業時間	前期30時間・後期30時間
担当者	恩田 麻衣		
実務経験	有	実務経験内容	管理栄養士として保育園で献立作成、調理食育指導、調理従事者への衛生指導。特定健康指導員として栄養指導、健康指導業務に従事。
講義概要	<p>飲食業を目指すものとして、日々私たちが食している食品がどのような働きをしているのか知っておくことが大切です。私たちの体はその人が食べているもので出来ています。私たちが食事をするによりそれぞれの食品に含まれている栄養素がどのように体内で働き生命を維持しているかを勉強します。それらを理解したうえで、健康を維持増進し、栄養改善できるような知識を習得します。</p>		
到達目標	2年次製菓衛生師国家試験受験・合格のための基礎知識の習得		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書 (日本菓子教育センター)		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	第1章 栄養学の概要 1	栄養学とは/栄養の意義と栄養素の分類 ①
2	3・4	第1章 栄養学の概要 2	栄養学とは/栄養の意義と栄養素の分類 ②
3	5・6	第2章 栄養素の機能・分類 1	たんぱく質 / 脂質 ①
4	7・8	第2章 栄養素の機能・分類 2	たんぱく質 / 脂質 ②
5	9・10	栄養素の分類 1	炭水化物 / 食物繊維 ①
6	11・12	栄養素の分類 2	炭水化物 / 食物繊維 ②
7	13・14	栄養素の分類 3	ミネラル / ビタミン ①
8	15・16	栄養素の分類 4	ミネラル / ビタミン ②
9	17・18	栄養素の分類 5	ビタミン ①
10	19・20	栄養素の分類 6	ビタミン ②
11	21・22	栄養素の分類 7	基礎食品 / ホルモンとその機能 ①
12	23・24	栄養素の分類 8	基礎食品 / ホルモンとその機能 ②
13	25・26	栄養素の分類 9	基礎食品 / ホルモンとその機能 ③
14	27・28	試験	前期定期試験
15	29・30	前期総括	前期定期試験解説・前期復習
16	31・32	第3章 栄養の消化と吸収 1	食べ物の行方/口腔内での消化 ①
17	33・34	第3章 栄養の消化と吸収 2	食べ物の行方/口腔内での消化 ②
18	35・36	第3章 栄養の消化と吸収 3	食べ物の行方/口腔内での消化 ③
19	37・38	第3章 栄養の消化と吸収 4	胃の中での消化 / 腸での消化・吸収 ①
20	39・40	第3章 栄養の消化と吸収 5	胃の中での消化 / 腸での消化・吸収 ②
21	41・42	エネルギー代謝 1	エネルギー代謝 ※お菓子の栄養価計算 ①
22	43・44	エネルギー代謝 2	エネルギー代謝 ※お菓子の栄養価計算 ②
23	45・46	第4章 栄養の摂取 1	食事摂取基準 / 生活消費量 ①
24	47・48	第4章 栄養の摂取 2	食事摂取基準 / 生活消費量 ②
25	49・50	第4章 栄養の摂取 3	食事摂取基準 / 生活消費量 ③
26	51・52	第4章 栄養の摂取 4	国民健康・栄養調査 / ライフステージの栄養労働と栄養 / 食生活と疾病 / 栄養成分表示①
27	53・54	第4章 栄養の摂取 5	国民健康・栄養調査 / ライフステージの栄養労働と栄養 / 食生活と疾病 / 栄養成分表示②
28	55・56	第4章 栄養の摂取 6	国民健康・栄養調査 / ライフステージの栄養労働と栄養 / 食生活と疾病 / 栄養成分表示③
29	57・58	試験	後期定期試験
30	59・60	後期総括	後期定期試験解説・後期復習
[評価の方法]			
<p>必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。</p>			

科目名	社会		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	先崎 仁思		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	製菓衛生師を「社会人」という側面から捉え、菓子製造と小売りの現場で活躍するために不可欠な素養（例：菓子の歴史）や考え方について学びます。とくに人材育成、接客、店員教育などの内容を通じて、一般常識を身につけ、「人間」の質を高め、優れた社会人となるための概念に力点を置いて学んでいきます。また、将来的に経営者を目指すための経営学の基礎についても学びます。		
到達目標	製菓分野の社会人として知っておくべき一般的な知識、概念について理解する。		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書（日本菓子教育センター）		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	第1章 菓子と食生活 第1節 菓子と食生活	菓子とは、食生活における意義、上古時代～京菓子・江戸風菓子時代①
2	2	第1章 菓子と食生活 第2節 菓子の歴史①	菓子とは、食生活における意義、上古時代～京菓子・江戸風菓子時代②
3	3	第1章 菓子と食生活 第2節 菓子の歴史②	洋菓子輸入時代～国際化時代、菓子小史①
4	4	第1章 菓子と食生活 第2節 菓子の歴史③	洋菓子輸入時代～国際化時代、菓子小史②
5	5	第1章 菓子と食生活 第2節 菓子の歴史①	菓子小史①
6	6	第1章 菓子と食生活 第2節 菓子の歴史②	菓子小史②
7	7	第1章 菓子と食生活 第2節 菓子の歴史③	菓子小史③
8	8	第1章 菓子と食生活 第3節 パンの歴史	パンの歴史、日本のパンの歴史
9	9	第1章 菓子と食生活 第4節 菓子製造の要件①	美的に優れていること、味覚的に優れていること、衛生的であること、栄養的に優れていること①
10	10	第1章 菓子と食生活 第4節 菓子製造の要件②	美的に優れていること、味覚的に優れていること、衛生的であること、栄養的に優れていること②
11	11	第1章 菓子と食生活 第4節 菓子製造の要件③	栄養的に優れていること
12	12	第1章 菓子と食生活 第5節 菓子の生産と消費、第6節 菓子の包装	和・洋菓子の生産状況、和洋菓子の消費状況、包装の定義と目的
13	13	第1章 菓子と食生活 第6節 菓子の包装	包装の定義と目的、包装素材
14	14	第2章 菓子店経営論 第1節 経営者の職務①	品質保持剤の封入、過大過剰包装と環境、容器包装リサイクル法、容器包装の識別表示
15	15	第2章 菓子店経営論 第1節 経営者の職務②	経営理念の構築と実践、企業の継続と発展を図るための果たすべき役割
16	16	第2章 菓子店経営論 第2節 立地条件および市場調査①	菓子店に適した立地
17	17	第2章 菓子店経営論 第2節 立地条件および市場調査②	菓子店に適した立地、住民の特性把握、競合店の調査
18	18	第2章 菓子店経営論 第3節 販売促進のあり方①	和菓子・洋菓子の特性を考えた販売促進、専門店にふさわしい販売促進
19	19	第2章 菓子店経営論 第3節 販売促進のあり方②	専門店にふさわしい販売促進、菓子店の販売促進はどのように行われるべきか、その他菓子店の販売促進の留意点、和菓子店
20	20	第2章 菓子店経営論 第4節 店舗のつくり方①	和菓子店
21	21	第2章 菓子店経営論 第4節 店舗のつくり方	和菓子店、洋菓子店
22	22	第2章 菓子店経営論 第5節 労働生産性①	生産性の意味、労働生産性を高めるために
23	23	第2章 菓子店経営論 第5節 労働生産性②	労働生産性を高めるために、材料費比率を決定する要因、人件費の適正値を知る労働分配率、材料費と人件費の有効活用、5S活動による効率化の推進①
24	24	第2章 菓子店経営論 第5節 労働生産性③	労働生産性を高めるために、材料費比率を決定する要因、人件費の適正値を知る労働分配率、材料費と人件費の有効活用、5S活動による効率化の推進②
25	25	第2章 菓子店経営論 第5節 労働生産性 第6節 必要売上高の求め方	5S活動による効率化の推進、損益分岐点売上高は菓子店経営の羅針盤、損益分岐点の求め方、必要売上高の求め方、菓子店にとっての適正利益とは
26	26	第2章 菓子店経営論 第7節 原価管理の方法	菓子店にとっての適正利益とは
27	27	第2章 菓子店経営論 第7節 原価管理の方法、第8節 労務管理①	人材とは、接客サービスと店員教育①
28	28	第2章 菓子店経営論 第8節 労務管理②	人材とは、接客サービスと店員教育②
29	29	第2章 菓子店経営論 第8節 労務管理③	接客サービスと店員教育、労働時間①
30	30	第2章 菓子店経営論 第8節 労務管理④	接客サービスと店員教育、労働時間②
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	製菓理論		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	石田 祐基		
実務経験	有	実務経験内容	製菓衛生師、調理師資格所持。ホテルでのシェフ、パティシエの経験を活かした講義形式の授業。
講義概要	製菓・製パンの技術を身に付けるにあたり、原材料の種類、基本特性や分類、製造工程、器具・機器の扱い方を実習授業と結びつけながら学んでいきます。材料が製品にどのように作用するか、そしてその特性をどのように活かしていくかという事を理論に基づいて考えていく力は技術者にとって必要不可欠となります。1年間でしっかりと製菓・製パンの基本理論を様々な角度から学び、製菓衛生師資格取得を目指していきます。		
到達目標	国家資格 製菓衛生師取得 パティシエとして最低限求められる知識を身につける。		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書 (日本菓子教育センター)		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1～3	甘味料入り口	砂糖の種類
2	4～6	甘味料	砂糖の特徴
3	7～9	小麦粉入り口	小麦種類
4	10～12	小麦粉	グルテンの特性
5	13～15	でん粉	でん粉の性質について
6	16～18	米粉	米粉の種類
7	19～21	鶏卵	卵の特性
8	22～24	牛乳	乳製品の特性
9	25～27	原料チョコレート類	チョコレートの特徴、加工適正
10	28～30	乳製品 チョコレート復習	チョコレート乳製品詳細
11	31～33	油脂	油脂の扱い方・特性について
12	34～36	果実	果実の分類、果実加工品
13	37～39	種実類	ナッツの特徴
14	40～42	凝固材料	凝固剤の種類
15	43～45	前期復習 期末試験	前期の内容を振り返り、期末試験
16	46～48	乳製品 期末試験フィードバック	期末試験フィードバック。乳加工品種類
17	49～51	風味 香料	香料、香辛料について
18	52～54	調味材料 酒	お酒の種類
19	55～57	パン酵母	パンにおけるイーストの効果
20	58～60	食塩・水	パンにおける塩・水の効果
21	61～63	モルト、製パン改良剤	モルト、イーストフードの作用
22	64～66	膨張剤、乳化剤	膨張剤、乳化剤の作用
23	67～69	着色料、増粘安定剤	添加物の使用目的
24	70～72	和菓子実習	和菓子分類
25	73～75	製パン実習	製パン分類
26	76～78	洋菓子実習 洋菓子の分類	洋菓子の製法による分類
27	79～81	洋菓子実習 基本配合	基本となる菓子類の配合
28	82～84	洋菓子実習	工程・焼成温度
29	85～87	後期振り返り 期末試験	後期の内容を振り返り、期末試験
30	88～90	期末試験 フィードバック	期末試験フィードバック。まとめ。
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	製菓衛生師講座		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	先崎 仁忠		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	人は、自分の限界を知っているつもりになり、それを理由に様々なことをあきらめます。しかし、アルフレッド・アドラーが述べているように、「人は、変わらないのではなく、変わらないという決断を常に行っているだけ」であり、その決断を変えれば、人は、変わることができます。製菓衛生師国家試験は、自分の作り上げていた限界を変えることで、それまでの自分を変えることができる試験といえます。大多数の先輩たちが成し遂げてきたように、自分を変え、自治体の長の名が入った合格証を手にする喜びを体験しましょう。講義では、①難解な科目の理解と②得点力の強化という2点から合格にアプローチしていきます。		
到達目標	製菓衛生師国家試験合格		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書、洋菓子教本（ともに日本菓子教育センター）、製菓衛生師教本（上下巻）（全国製菓衛生師養成施設協会）		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	全教科の理解と得点力の向上 1	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
2	4・5・6	全教科の理解と得点力の向上 2	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
3	7・8・9	全教科の理解と得点力の向上 3	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
4	10・11・12	全教科の理解と得点力の向上 4	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
5	13・14・15	全教科の理解と得点力の向上 5	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
6	16・17・18	全教科の理解と得点力の向上 6	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
7	19・20・21	全教科の理解と得点力の向上 7	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
8	22・23・24	全教科の理解と得点力の向上 8	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
9	25・26・27	全教科の理解と得点力の向上 9	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
10	28・29・30	全教科の理解と得点力の向上 10	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
11	31・32・33	全教科の理解と得点力の向上 11	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
12	34・35・36	全教科の理解と得点力の向上 12	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
13	37・38・39	全教科の理解と得点力の向上 13	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
14	40・41・42	全教科の理解と得点力の向上 14	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
15	43・44・45	全教科の理解と得点力の向上 15	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
16	46・47・48	全教科の理解と得点力の向上 16	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
17	49・50・51	全教科の理解と得点力の向上 17	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
18	52・53・54	全教科の理解と得点力の向上 18	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
19	55・56・57	全教科の理解と得点力の向上 19	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
20	58・59・60	全教科の理解と得点力の向上 20	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
21	61・62・63	全教科の理解と得点力の向上 21	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
22	64・65・66	全教科の理解と得点力の向上 22	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
23	67・68・69	全教科の理解と得点力の向上 23	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
24	70・71・72	全教科の理解と得点力の向上 24	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
25	73・74・75	全教科の理解と得点力の向上 25	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
26	76・77・78	全教科の理解と得点力の向上 26	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
27	79・80・81	全教科の理解と得点力の向上 27	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
28	82・83・84	全教科の理解と得点力の向上 28	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
29	85・86・87	全教科の理解と得点力の向上 29	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
30	88・89・90	全教科の理解と得点力の向上 30	①難解とされる教科の学力向上を目的とした授業（主な対象教科：衛生法規、公衆衛生学及び食品衛生学）。②過去出題問題を活用した得点力向上のための演習形式の授業（対象教科：衛生法規、公衆衛生学、食品学、食品衛生学、栄養学、製菓理論、製菓実技）。
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	生活・実習指導		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	担任		
実務経験	有	実務経験内容	ホテルでのパティシエとして勤務。ホテルでのスイーツ作りや宴会や結婚式でのケーキ、デザートを担当。
講義概要	職業人として生きていくために同じ夢を持つ仲間たちとの意見交換の場とする。社会で注目されている出来事や、流行をテーマとしてグループワークを行い、社会に目を向ける機会を増やすことで、卒業後に進んでいく世界に対する視野を広げていく。身近な目標と将来の目標を設定し、振り返りや修正を行いながら自分自身のビジョンを描くことを目的とする。 個人の目標を作成、実行していき自分自身の振り返りを行い、社会人として生きていくためのヒントを日々の生活の中から探していく。		
到達目標	日々の課題と向き合い、解決する力を身に着ける		
授業運営方法	講義形式		
教科書	なし		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	クラス運営、学生の役割分担等の理解。実習等実施に向けての案内、心構え、実習マニュアルの理解、マナー指導 クラスリーダー係決め。
2	2	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、目標、マナー指導
3	3	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	GWの過ごし方・自分自身の想像 先生のショッピングリサーチ
4	4	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表 洋菓子協会ガトー解説
5	5	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表
6	6	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表
7	7	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スポーツ大会等の行事準備
8	8	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スポーツ大会等の行事準備
9	9	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スポーツ大会等の行事準備
10	10	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スポーツ大会等の行事準備
11	11	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	洋菓子コンテストについて。
12	12	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	洋菓子コンテストについて。振り返り。
13	13	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	期末試験について。
14	14	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	夏休みの過ごし方・自分自身の想像
15	15	前期振り返り・後期に向けて	前期振り返り・後期に向けて
16	16	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	クールライフマニュアルの活用、マナー指導
17	17	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表 洋菓子協会ガトー解説
18	18	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表
19	19	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	学園祭等学校行事の準備
20	20	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	学園祭等学校行事の準備
21	21	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	学園祭等学校行事の準備
22	22	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	学園祭等学校行事の準備
23	23	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、企業実習へ向けて
24	24	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、企業実習へ向けて
25	25	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	企業実習へ向けて、マナー、話し方
26	26	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	企業実習へ向けて、マナー、話し方
27	27	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、自己評価シート
28	28	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、就職活動へ向けて
29	29	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、就職活動へ向けて
30	30	1年間振り返り・2年生に向けて	1年間振り返り・2年生に向けて
[評価の方法]			
成績の評定は、出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、R評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	ホスピタリティ		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期 15時間・後期15時間
担当者	黒坂 明子		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	・ホスピタリティー精神を身に付ける		
	・「もてなし」の行動や考え方を通し、接客・接遇の場面でのホスピタリティーを理解する。		
	・主客の両方がお互い満足し、それによって信頼関係を強め、共に価値を高めていく「共創」の理解。		
	・「ホスピタリティー」と「サービス」の違いを理解する。		
到達目標	・サービス業務の習得、基本的な飲料の製法の理解と実践・知識の習得		
授業運営方法	演習形式		
教科書	ホスピタリティーマインド 養成ワークブック		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	ホスピタリティーの理解 I	ホスピタリティーの定義の理解・ゴールの確認 I
2	2	ホスピタリティーの理解 II	ホスピタリティーの定義の理解・ゴールの確認 II
3	3	自分探しの旅 I	他己紹介・絵による自己表現 I
4	4	自分探しの旅 II	他己紹介・絵による自己表現 II
5	5	自己理解・自己受容 I	心理学による自己分析・自分を知る I
6	6	自己理解・自己受容 II	心理学による自己分析・自分を知る II
7	7	気づきと自己改善の勧め I	マイナス思考とプラス思考の違いを考える I
8	8	気づきと自己改善の勧め II	マイナス思考とプラス思考の違いを考える II
9	9	ホスピタリティーマインドの確立 I	マイナス思考に陥った場合の対処行動・DVD鑑賞 I
10	10	ホスピタリティーマインドの確立 II	マイナス思考に陥った場合の対処行動・DVD鑑賞 II
11	11	他者理解・他者受容 I	価値観とは・自分の物の見方や考え方を知る I
12	12	他者理解・他者受容 II	価値観とは・自分の物の見方や考え方を知る II
13	13	他者理解・他者受容 III	相手を理解し、受容する事の重要性
14	14	前期期末試験	前期期末筆記試験
15	15	前期まとめ	前期フィードバック
16	16	前期振り返り	前期振り返り
17	17	ホスピタリティーマインドの発揮 I	他者から見る自分のイメージを知る I
18	18	ホスピタリティーマインドの発揮 II	他者から見る自分のイメージを知る II
19	19	自画像と他画像の違い I	印象ゲーム I
20	20	自画像と他画像の違い II	印象ゲーム II
21	21	豊かな触れ合いのために I	ストローク(触れ合い)の理解/DVD鑑賞 I
22	22	豊かな触れ合いのために II	ストローク(触れ合い)の理解/DVD鑑賞 II
23	23	温かい交流のために I	ストローク演習/DVD鑑賞 I
24	24	温かい交流のために II	ストローク演習/DVD鑑賞 II
25	25	ホスピタリティーサービスの本質 I	モノ的なサービス・ヒト的なサービス/CSとお客様心理 I
26	26	ホスピタリティーサービスの本質 II	モノ的なサービス・ヒト的なサービス/CSとお客様心理 II
27	27	おもてなしについて I	ディズニーにおける、おもてなしとは/おもてなしの心を形に I
28	28	おもてなしについて II	ディズニーにおける、おもてなしとは/おもてなしの心を形に II
29	29	後期期末試験	後期期末試験
30	30	後期まとめ	1年間の振り返りとまとめ
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	製菓実習		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次・前期・後期	授業時間	前期 210時間・後期270時間
担当者	小沼 善裕、石田 祐基、菊池 孝、石井 美春、他外部講師		
実務経験	有	実務経験内容	ホテルやパティスリーでのパティシエやブーランジェとして製菓、製パンの製造に携わる。また、外部講師については現役パティシエ、ブーランジェであり、自身経営のパティスリー等の経営、運営に携わっている。
講義概要	基礎技術の習得を行い、基本から一歩踏み込み応用アイテムやマジパンなどの工芸菓子を学びます。 また、基礎・応用技術を生かし、オリジナルアイテムを考案・制作します。そして、その中のグループワークを通し、個人だけでなくチームとしての動きをお菓子作りを通して体得していきます。 一つ一つの作業はケーキやパンを作るうえでどれも欠かせない工程であり、正しい技術と知識を兼ね備えた職業人となることを目的とします。		
到達目標	職人として求められる技術や能力の向上。 現場で必要とされる個々の技術・チームワーク力・コミュニケーション能力を身につける。		
授業運営方法	実習形式		
教科書	洋菓子教本 (日本菓子教育センター)、製菓衛生師全書 (日本菓子教育センター)		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1～6	実習への導入・洋菓子実習	基礎となる製造技術習得、サブレでバターの可塑性の理解
2	7～12	製パン実習	基礎となる製造技術習得、グルテンの理解
3	13～18	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、基礎
4	19～24	洋菓子実習	基礎となる製造技術習得、プリンで卵熱凝固
5	25～30	製パン実習	基礎となる製造技術習得、イーストについて理解
6	31～36	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、製法の理解
7	37～42	洋菓子実習	基礎となる製造技術習得、シュガーバター法
8	43～48	製パン実習	基礎となる製造技術習得、ミキシング段階の理解
9	49～54	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、製餡
10	55～60	洋菓子実習	基礎となる製造技術習得、メレンゲの基本
11	61～66	製パン実習	基礎となる製造技術習得、発酵の理解
12	67～72	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、焼き菓子
13	73～78	製パン実習	基礎となる製造技術習得、パンチの理解
14	79～84	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、流し物
15	85～90	期末試験・洋菓子実習	基本的な技術の実習試験・振り返り
16	91～96	製パン実習	基礎となる製造技術習得、パンの動きを助けるもの
17	97～102	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、朝生菓子
18	103～108	洋菓子実習	基礎となる製造技術習得、タルト、フォンサージュ
19	109～114	製パン実習	基礎となる製造技術習得、グルテン形成を阻害するもの
20	115～120	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、上生菓子
21	121～126	洋菓子実習	基礎となる製造技術習得、マジパンの基本
22	127～132	製パン実習	基礎となる製造技術習得、成形のコツ
23	133～138	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、平鍋物
24	139～144	洋菓子実習	基礎となる製造技術習得、ババロアについて
25	145～150	製パン実習	基礎となる製造技術習得、焼成の理解
26	151～156	和菓子実習	基礎となる製造技術習得、蒸し物
27	157～162	洋菓子実習	基礎となる製造技術習得、別立て法について
28	163～168	製パン実習・実技テスト	基本的な技術の実習試験
29	169～174	和菓子実習・実技テスト	基本的な技術の実習試験

30	175~180	期末試験・洋菓子実習	基本的な技術の実習試験・振り返り
31	181~240	校外実習	校外実習
32	241~248	洋菓子実習	パートブリゼについて、生地の理解
33	249~256	洋菓子実習	シュー生地の作業工程、製法理解
34	257~264	洋菓子実習	大量実習
35	265~272	洋菓子実習	ナッペの技術習得
36	273~280	洋菓子実習	ベリーヌ、凝固剤について理解
37	281~288	洋菓子実習	コンフィズリーの製造
38	289~296	洋菓子実習	フロマーシュの製造
39	297~304	洋菓子実習	外部講師① 現場の話を聞く
40	305~312	洋菓子実習	ババロワの製法理解
41	313~320	洋菓子実習	外部講師② 現場の技術
42	321~328	洋菓子実習	学園祭の大量実習
43	329~336	洋菓子実習	学園祭の大量実習
44	337~344	洋菓子実習 基礎練習	試験前の技術練習
45	345~352	洋菓子実習 期末試験	基本となる技術の実習試験
46	353~360	洋菓子実習 前期振り返り	テスト解説
47	361~368	洋菓子実習	タルト・ブリゼ生地、フォンサーシュ
48	369~376	洋菓子実習	マカロンの製造
49	377~384	洋菓子実習	ショコラの製造
50	385~392	洋菓子実習	ショコラテンパリングの方法・理解
51	393~400	洋菓子実習	ムースの製造・組立
52	401~408	洋菓子実習	外部講師③ アシェットデセール <small>の</small> 製法、盛り付け方法
53	409~416	洋菓子実習	モンブラン製造・組立
54	417~424	洋菓子実習	外部講師④ 製造技術
55	425~432	洋菓子実習	クリスマスケーキ、飾りつけ
56	433~440	洋菓子実習	パイ生地
57	441~448	洋菓子実習	角ナッペ
58	449~456	洋菓子実習	特別授業、お客様の立場になって考える。
59	457~464	洋菓子実習 基礎練習	クリームを使った技術練習
60	465~472	洋菓子実習 期末試験	基本となる技術の実習試験
61	473~480	洋菓子実習 後期振り返り	テスト解説

【評価の方法】

必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。

科目名	国家試験対策		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期	授業時間	前期82時間
担当者	先崎 仁思		
実務経験	—	実務経験内容	
講義テーマ	製菓衛生師取得のための対策講座		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時に学んだ製菓衛生師試験問題の内容を復習し、試験本番に向け対策する。 ・試験の出題方式の四者択一形式の模擬試験を行い、試験本番に向け訓練する。 ・試験合格だけを目標にするのではなく、就職してからの業務の中で学んだことをいかす。 		
到達目標	製菓衛生師国家試験合格		
授業運営方法	講義形式		
教科書	製菓衛生師全書 (日本菓子教育センター)		
[講義計画]			
回	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3・4・5	合格ライン到達のための模擬試験、1年次の復習	製菓衛生師試験の模試を行い、誤ったヶ所に関し教科書を用いて修正することで、自分の弱点を把握し、又それを克服するために試験対策にあたる。6月の東京都をはじめ各自治体の試験問題の傾向やその対策を実施し、練習問題を繰り返し継続して行う。
2	6・7・8・9・10		
3	11・12・13・14・15		
4	16・17・18・19・20		
5	21・22・23・24・25		
6	26・27・28・29・30		
7	31・32・33・34・35		
8	36・37・38・39・40		
9	41・42・43・44・45		
10	46・47・48・49・50		
11	51・52・53・54・55		
12	56・57・58・59・60		
13	61・62・63・64・65		
14	66・67・68・69・70		
15	71・72・73・74・75		
16	76・78・79・80・81・82		
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	接客ベーシック		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	井部 有美子		
実務経験	—	実務経験内容	
講義テーマ	店舗に於いて、お客様への対応や接客のマナーを学ぶ。		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> 商品説明や様々なケースを想定したロールプレイングを通じ、接客スキルを体得する。 クレーム対応など実際の現場で直面するケースへの対応方法を、個人やグループワークでの試験を通じ、自ら解決しようとする意識を養う。 接客対話練習や小テストを通じ、敬語の習得に努める。 		
到達目標	・職場で「真心と思いやりの精神」を発揮できる人材育成を目指す。		
授業運営方法	講義形式		
教科書	なし		
【講義計画】			
回	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	授業概要、プロ意識について	授業概要と授業内容の年間スケジュール、ありがたい自分の姿を思い描く。
2	2	接客マナーの基本①	接客マナーの5原則 接客7大用語
3	3	接客マナーの基本②	挨拶練習、お辞儀の種類と内容
4	4	顧客について学ぶ①	顧客とは、顧客満足度について
5	5	顧客について学ぶ②	顧客満足度向上にむけて
6	6	敬語について①	敬語の基本、
7	7	敬語について②	接客用語について
8	8	敬語について③	ビジネスに於ける敬語の実際、
9	9	接客ロールプレイング①	アプローチからお見送り迄
10	10	接客ロールプレイング②	アプローチからお見送り迄
11	11	接客ロールプレイング③	商品説明
12	12	接客ロールプレイング④	商品説明
13	13	接客ロールプレイング⑤	これまでのまとめ
14	14	前期期末試験実施	前期試験実施
15	15	期末試験フィードバック、前期授業まとめ	成績発表、フィードバック
16	16	電話対応①	電話対応の基本
17	17	電話対応②	電話の受け方、かけ方の基本、練習
18	18	電話対応③	不在時の対応、伝言の承り方
19	19	電話対応④	電話対応の実際：パースデーケーキの受注
20	20	電話対応⑤	これまでのまとめ
21	21	クレームについて①	クレームの事例とその対応方法
22	22	クレームについて②	クレームの事例とその対応方法
23	23	クレームについて③	これまでのまとめ
24	24	不満を信頼に変える接客①	クレームを承るときの心構え、
25	25	不満を信頼に変える接客②	信頼関係を築くためには、
26	26	チームで働く①	店舗運営でのチームワークの意義と重要性
27	27	チームで働く②	店舗運営でのチームワークの意義と重要性
28	28	接客ロールプレイング⑥	様々なケースの接客について
29	29	後期期末試験実施	後期期末試験
30	30	期末試験フィードバック、1年間の授業まとめ	1年間の総まとめ、試験のフィードバック
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	生活・実習指導		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	担任		
実務経験	有	実務経験内容	ホテルでのパティシエとして勤務。ホテルでのスイーツ作りや宴会や結婚式でのケーキ、デザートを担当。
講義概要	職業人として生きていくために同じ夢を持つ仲間たちとの意見交換の場とする。社会で注目されている出来事や、流行をテーマとしてグループワークを行い、社会に目を向ける機会を増やすことで、卒業後に進んでいく世界に対する視野を広げていく。身近な目標と将来の目標を設定し、振り返りや修正を行いながら自分自身のビジョンを描くことを目的とする。 個人の目標を作成、実行していき自分自身の振り返りを行い、社会人として生きていくためのヒントを日々の生活の中から探していく。		
到達目標	日々の課題と向き合い、解決する力を身に着ける		
授業運営方法	講義形式		
教科書	なし		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	クラス運営、学生の役割分担等の理解。実習等実施に向けての案内、心構え、実習マニュアルの理解、マナー指導 クラスリーダー係決め。
2	2	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、目標、マナー指導
3	3	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	GWの過ごし方・自分自身の想像 先生のショッピングリサーチ
4	4	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表 洋菓子協会ガトー解説
5	5	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表
6	6	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表
7	7	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スポーツ大会等の行事準備
8	8	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スポーツ大会等の行事準備
9	9	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スポーツ大会等の行事準備
10	10	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スポーツ大会等の行事準備
11	11	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	洋菓子コンテストについて。
12	12	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	洋菓子コンテストについて。振り返り。
13	13	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	期末試験について。
14	14	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	夏休みの過ごし方・自分自身の想像
15	15	前期振り返り・後期に向けて	前期振り返り・後期に向けて
16	16	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	クールライフマニュアルの活用、マナー指導
17	17	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表 洋菓子協会ガトー解説
18	18	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	ショッピングリサーチ、発表
19	19	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	学園祭等学校行事の準備
20	20	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	学園祭等学校行事の準備
21	21	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	学園祭等学校行事の準備
22	22	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	学園祭等学校行事の準備
23	23	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、企業実習へ向けて
24	24	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、企業実習へ向けて
25	25	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	企業実習へ向けて、マナー、話し方
26	26	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	企業実習へ向けて、マナー、話し方
27	27	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、自己評価シート
28	28	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、就職活動へ向けて
29	29	学生生活と専門学校で学ぶべきこと	スクールライフマニュアルの活用、就職活動へ向けて
30	30	1年間振り返り・2年生に向けて	1年間振り返り・2年生に向けて
【評価の方法】			
成績の評定は、出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、R評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	F&Bオペレーション		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期18時間・後期18時間
担当者	福嶋 勘太郎		
実務経験	有	実務経験内容	SCAJコーヒーマイスター取得。現役バリスタとして喫茶・豆の小売業の経験を活かした演習授業。
講義テーマ	カフェやラウンジでのサービス技法について		
講義概要	・フード&ビバレッジのサービスをトレーニングを通して身につける。		
	・ドリンクアイテムの製法の理解、技術習得。		
	・基本の飲料と菓子のペアリングについて、実際に触れながら理解する。		
到達目標	サービス業務の習得、基本的な飲料の製法の理解と実践・知識の習得		
授業運営方法	演習形式		
教科書	なし		
回	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	コーヒーの抽出①	コーヒーの基礎知識
2	3・4	コーヒーの抽出②	ドリップコーヒー抽出実技とテイスティング
3	5・6	コーヒーの抽出③	復習とまとめ
4	7・8	ドリンク論①	紅茶の基礎知識
5	9・10	ドリンク論②	紅茶の実技とテイスティング
6	11・12	ドリンク論③	復習とまとめ
7	13・14	エスプレッソの抽出①	エスプレッソ抽出の基礎知識
8	15・16	前期期末試験実施・フィードバック	コーヒー抽出実技試験、フィードバックと前期授業のまとめ
9	17・18	エスプレッソの抽出②	ラテアートの基本技術
10	19・20	エスプレッソの抽出③	復習とまとめ
11	21・22	ドリンク論④	飲料提供のサービスの知識
12	23・24	ドリンク論⑤	ドリンク全般概要説明
13	25・26	ドリンクと菓子のペアリング①	コーヒーとスイーツのマリアージュ
14	27・28	ドリンクと菓子のペアリング②	紅茶とスイーツ、アフタヌーンティーについて
15	29・30	ドリンクと菓子のペアリング③	抹茶、煎茶と甘味の組み合わせについて
16	31・32	創作ドリンク①	コンセプトと試作
17	33・34	創作ドリンク②	プレゼンテーション、フィードバック
18	35・36	後期期末試験実施・フィードバック	期末試験と1年間のまとめ
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	販売演習		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	石田 祐基		
実務経験	有	実務経験内容	製菓衛生師、調理師資格所持。ホテルでのシェフ、パティシエの勤務経験を活かした演習授業。
講義テーマ	販売する立場になりケーキ作りを思考する。スイーツのデッサンを通じて、質の高いスイーツを考案する技量を習得する。		
講義概要	自分自身が作ろうと思うものを形にする力を養う為。(イメージできなければ何も作れない。創造性の強化)		
	色合いや、見た目イメージが変わる事を理解。原価計算をする。原価率を知る。レシピの微調整する計算方法の理解。		
	スイーツのデザイン演習を行い、視覚から訴える事の出来る能力を磨く。		
	食品全般への色彩の考え方を学び、「美味しく見せる」「美しく見せる」ための手法を習得する。		
	季節感を表現するための色彩表現をカラーチャート、色鉛筆での配色演習、切り抜きなどを使ったコラージュ制作など学びセンスを養う。		
到達目標	販売する目線から見た売りポイントを考えられるようにする。		
	イメージを形にする工程の理解。原価やレシピの微調整する知識を習得。		
	フードデザイン、色彩感覚の基礎知識習得		
授業運営方法	講義形式、グループワーク、グループディスカッション		
教科書	新調理師養成教育全書 全国調理師養成施設協会、色の辞典、配食カード199a		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	導入。	前期授業の流れや販売のについて説明。ウェルカムスイーツのスケジュール。
2	4・5・6	カラー	色の配置、配列、イメージを与える色など。マジパンやショーケースの配列まで落とし込めるとよ
3	7・8・9	マジパンデザイン決め。	ゼロからイチを作る力。マジパンをやる上での大切なこと説明。ストーリーやデザイン決め。
4	10・11・12	マジパンデッサン	絵を書き工程を考える。どのような順番で作るのか。作り方説明。
5	13・14・15	販売用ケーキ考案(サマー)①	どんな印象を相手に与えたいのか。何を主軸にしどんな材料を使用するのか。
6	16・17・18	販売用ケーキ考案(サマー)②	ルセット決め。工程を考える。発注物を確認。試作する(上位2班は販売できる)
7	19・20・21	ラッピング	ラッピングの基礎。リボンを箱に巻くやり方、包装紙の折り方。
8	22・23・24	販売用ケーキ原価計算	原価計算。ルセットの微修正を行う。どこが多かったのか仕込み量を考える。計算問題など。電卓
9	25・26・27	ショップリサーチ①	チーム決め。どんな場所に行くのか。行くまでの交通時間やプラン決め。
10	28・29・30	ショップリサーチ②	校外授業。(お店の雰囲気。接客の仕方、どのような雰囲気づくりをしているのか。客層、販売しているものをチェック。ケーキの写真撮りケーキを材料から説明できるようにする)
11	31・32・33	ショップリサーチ③	リサーチしたことをまとめる。パワポを作成。パワポ説明使い方解説。
12	34・35・36	ショップリサーチ④	モニターに写真を映し出ししながら。解説説明。
13	37・38・39	学園祭	学園祭チーム決め。学園祭のアイテム、ルセットを決める。現時点でのデッサン。
14	40・41・42	期末試験	期末試験。ルセットを詰める。原価を先に確認。おおよその程度できるのか。
15	43・44・45	フィードバック	フィードバック。使用道具の確認。被らないように注意する。
1	46・47・48	導入。	後期授業の流れ説明。発注物を確認。進行表を作成。
2	49・50・51	カラー	ケーキの仕上げ、映える色使いなど。
3	52・53・54	学園祭原価	原価、ロス計算し純粋な利益を計算する。ロスがでないようにするにはどうすればいいのか。
4	55・56・57	販売レシピ考案(ウィンター)①	どんな印象を相手に与えたいのか。何を主軸にしどんな材料を使用するのか。
5	58・59・60	販売レシピ考案(ウィンター)②	ルセット決め。工程を考える。発注物を確認。
6	61・62・63	パリエ販売について①	チーム決め。使用食材決め。ルセット考案。
7	64・65・66	F&Bケーキ	マリアージュのケーキ考案。食材決め、ルセット、発注物を確認。
8	67・68・69	パリエ販売について②	ルセット詳細。発注物を確認。仕込み工程表タイムスケジュール
9	70・71・72	焼き菓子の裏面表示	菊池先生による、裏面表示の注意点など解説。アレルギー表示など。
10	73・74・75	ラッピング	ラッピングの基礎。ラッピングの選び方リボンを箱に巻くやり方、包装紙の折り方復習
11	76・77・78	ラッピングの実践	販売につなげる。仕込んだ焼き菓子をラッピングし販売用意し、翌日販売。AとBは違うアイテム。
12	79・80・81	パリエ販売について③	原価計算。製品説明の図。本仕込のタイムスケジュール。
13	82・83・84	卒業制作について	どのように運営するか
14	85・86・87	期末試験	期末試験。製品説明と売りポイント発表。
15	88・89・90	フィードバック。	フィードバック。卒業制作物のプレゼン練習。
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	就職・業界ガイド		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期	授業時間	前期30時間
担当者	山下 初音		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> • これからの進路選択に向けて、業界事情や雇用制度について理解を深める。 • 求人情報の案内。 • 採用活動の傾向と対策。(自己分析や提出書類作成のポイント、面接練習など、過去の実績や情報を踏まえた受験指導) • 職人といえども一社会人。職場での立ち振る舞いやビジネスマナー、社会保険や税金の知識を伏せて身につける。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> • 卒業後の進路決定 • 社会人基礎力の構築 		
授業運営方法	演習形式		
教科書	これだけは知っておきたい! 面接対策&ビジネスマナー		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	採用試験の傾向と対策/企業への訪問・連絡の取り方	企業形態別の試験傾向&対策/企業訪問時のマナー・電話やメール、書類の送り方について
2	3・4	提出書類 自己分析	履歴書作成時のポイントと記入演習/自己分析の大切さ
3	5・6	卒業生講話	勤務先の紹介/就職活動へのアドバイス
4	7・8	自己PRとは…	自己PR作成のポイント/自己の振り返り(アピールポイントを見つける)
5	9・10	自己PR作成	自己PR作成
6	11・12	志望動機の書き方	志望動機作成のポイント/業界志望動機作成
7	13・14	面接試験の傾向と対策	挨拶/姿勢/言葉使い/第一印象と一貫性の大切さ
8	15・16		面接演習(グループ)
9	17・18	一般常識試験対策	試験問題演習/解説
10	19・20	時事問題対策	昨今起きた社会的な事象を解説
11	21・22	小論文	小論文の書き方/演習
12	23・24	就業準備	職場でのマナー/情報管理
13	25・26		知っておきたいお金のこと
14	27・28	前期期末試験キャリアについて考える	前期期末筆記試験/「働く」と「人生」を考える
15	29・30	テスト返却 内定とは…	内定=終わりではない(目的を持ち残りの学生生活を送る)
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
[評価の方法]			
<p>必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。</p>			

科目名	製菓実習		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期252時間・後期252時間
担当者	小沼 善裕、石田 祐基、菊池 孝、石井 美晴、外部講師		
実務経験	有	実務経験内容	ホテルやパティスリーでのパティシエやプーランジェとして製菓、製パンの製造に携わる。また、外部講師については現役パティシエ、プーランジェであり、自身経営のパティスリー等の経営、運営に携わっている。
講義テーマ	基礎技術の習得。基本から応用のアイテムやマジパン等の工芸菓子を学ぶ。		
講義概要	・基礎、応用技術を生かし、オリジナルアイテムの考案、制作するグループワークを通じ、個人の技量と共に協働の大切さを学ぶ。		
	・個々の作業を丁寧に学んでいく事で、正しい技術と知識をバランスよく習得できた職業人になることを目的とする。		
到達目標	職業人として求められる技術や能力の向上。現場で必要とされる個々の技術と協調性を身につける。		
授業運営方法	実習形式		
教科書	洋菓子教本（日本菓子センター）※1年次購入済み。		
【講義計画】			
回	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1～18	タルト復習 ①	タルトショコラ、タルトオランジュ
2	19～36	ロール復習 ①	黒蜜ロール、チョコレートのロール
3	37～54	マジパン導入	『マジパン』作成のために必要な基本技術を学ぶ。
4	55～72	タルト復習 ②	タルトフロマージュ
5	73～90	ロール復習 ②	ルーローフリユイ
6	91～108	ムース復習 ①	ムースオランジュ、クレームパティシエール
7	109～126	ムース復習 ②	フレジェ、パリプレスト
8	127～144	古典菓子	ガレットブルトンヌ、ファールトン、揚げシュー
9	145～162	ヴェリーヌ応用	苺のヴェリーヌ
10	163～180	マジパン作成 ①	千葉県洋菓子コンテスト予選に向けて
11	181～198	マジパン作成 ②	千葉県洋菓子コンテスト予選に向けて
12	199～216	製パン応用 ①	米粉ロール、栗ロール、ビスキュイロール
13	217～234	前期期末試験	製菓実技試験：シューアラクレーム
14	235～252	フィードバック	前期期末試験のフィードバックと前期授業のまとめ
15	253～270	季節のフルーツを使用した菓子	シーブスト、ティラミス
16	271～288	製パン応用 ②	ミルクパン・ライ麦パン・焼きチーズカレーパン
17	289～306	製パン応用 ③	シュトーレン、パネトーネ
18	307～324	重ね菓子のお菓子	ミルクレープ クリームチーズ
19	325～342	クリスマスアイテム	ブッシュドノエル、
20	343～360	クリームの応用	クレームグリオット、抹茶のガトーショコラ
21	361～378	和菓子応用 ①	栗饅頭・かすてら饅頭・桃山
22	379～396	デザート応用	レモンのムースとクレームダンジュの皿盛り、タルトショコラの皿盛りデザート
23	397～414	イースト菓子	ババ・オ・ラム、クグロフ
24	415～432	トレットール	キッシュロレーヌ、タブレ
25	433～450	オリジナルアイテム考案・試作 ①	
26	451～468	オリジナルアイテム考案・試作 ②	
27	469～486	後期期末試験	製菓実技試験：基本となる技術の製菓作成
28	487～504	フィードバック	後期期末試験のフィードバックと授業のまとめ
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	食生活と健康		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	恩田 麻衣		
実務経験	有	実務経験内容	管理栄養士として保育園で献立作成、調理食育指導、調理従事者への衛生指導。特定健康指導員として栄養指導、健康指導業務に従事。
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持・増進に寄与する食生活の重要性を認識する。 調理師法、健康増進法及び食育基本法などの健康づくりや食生活の向上に関する法規や関連する対策及び活動について学ぶ。 食育基本法を理解し、食育における調理師の役割を認識する。 労働環境と健康に関し学び、安全で安心できる職場の環境整備について学ぶ。 環境問題や自然環境が生活に及ぼす影響を理解し、これからの適正なライフスタイルを意識する。 		
到達目標	調理師免許取得、技術考查合格		
授業運営方法	講義形式		
教科書	新調理師養成教育全書 1 食生活と健康 全国調理師養成施設協会		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	健康の考え方	わが国の健康水準、死亡率、健康寿命
2	4・5・6	食と健康の関係	食生活が健康に果たす役割
3	7・8・9	調理師の役割	調理師法の概要
4	10・11・12	食生活と疾病	疾病の動向、疾病の予防
5	13・14・15	生活習慣病とは①	三大生活習慣病
6	16・17・18	生活習慣病とは②	生活習慣病の予防
7	19・20・21	健康づくり対策①	疾病予防から健康増進へ
8	22・23・24	健康づくり対策②	健康増進法、健康教育
9	25・26・27	心の健康づくり	心神喪失とストレス
10	28・29・30	調理師と食育①	食育とは、食育基本法の概要
11	31・32・33	調理師と食育②	食育における調理師の役割
12	34・35・36	食糧事情の課題	フードマイレージ
13	37・38・39	食育の実践	味覚の授業：味覚の1週間模擬授業
14	40・41・42	前期期末試験	前期期末筆記試験
15	43・44・45	試験結果フォローアップ	前期期末試験フォローアップ、前期のまとめ
16	46・47・48	労働と健康	作業環境と健康、作業条件と健康
17	49・50・51	職業病	職業病の原因
18	52・53・54	労働災害	労働災害の現状
19	55・56・57	調理師の職場環境①	職場環境の現状
20	58・59・60	調理師の職場環境②	調理施設の環境
21	61・62・63	調理施設での労働災害	調理施設での労働災害の防止
22	64・65・66	環境と健康	生活環境の衛生
23	67・68・69	現代の生活環境	環境因子
24	70・71・72	環境条件	大気の組成
25	73・74・75	水	水の重要性
26	76・77・78	住居、廃棄物、放射線	健康で安全な住居に必要な条件
27	79・80・81	環境汚染とその対策	広がる環境汚染
28	82・83・84	まとめ	1年間のまとめ、振り返り
29	85・86・87	後期期末試験	後期期末筆記試験
30	88・89・90	試験結果フォローアップ	後期末試験フォローアップ、前期のまとめ
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	食品と栄養の特性		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期75時間・後期75時間
担当者	澤田 江里子		
実務経験	有	実務経験内容	管理栄養士として病院で栄養指導、献立作成、調理業務管理、食品衛生管理を担当。
講義概要	・栄養素の機能と健康のかかわりについて理解する。		
	・栄養素の消化、吸収、代謝の仕組みと流れを理解する。		
	・日本人の食事摂取基準から、年代別に必要な栄養量の基礎を学ぶ。		
	・食品の特徴、旬、成分や加工食品についての知識を深める。		
	・食品の生産と輸入、流通の仕組みを学ぶ。		
到達目標	調理師免許取得、技術審査合格		
授業運営方法	講義形式		
教科書	新調理師養成教育全書 2 食品と栄養の特性 全国調理師養成施設協会		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	栄養素の機能と健康①	栄養と健康
2	3・4・5	栄養素の機能と健康②	栄養の種類
3	6・7	栄養素の機能と健康③	食品の成分と体の成分
4	8・9・10	炭水化物	栄養素の種類(炭水化物とは、炭水化物の種類)
5	11・12	脂質	栄養素の種類(脂質とは、脂質の種類)
6	13・14・15	タンパク質	栄養素の種類(タンパク質とは、タンパク質の種類)
7	16・17	ビタミン	栄養素の種類(ビタミンとは、ビタミンの種類)
8	18・19・20	ミネラル	栄養素の種類(ミネラルとは、ミネラルの種類)
9	21・22	その他の成分	水分、機能性成分
10	23・24・25	消化と吸収①	食品の摂取
11	26・27	消化と吸収②	生理的欲求
12	28・29・30	消化と吸収③	心理的欲求
13	31・32	消化と吸収④	栄養管理
14	33・34・35	消化と吸収⑤	栄養素の消化
15	36・37	消化と吸収①	栄養素の吸収
16	38・39・40	消化と吸収①	栄養素の代謝
17	41・42	エネルギー代謝と食事摂取基準①	エネルギーの代謝と消費
18	43・44・45	エネルギー代謝と食事摂取基準②	エネルギー摂取量とエネルギー消費量
19	46・47	エネルギー代謝と食事摂取基準③	日本人の食事摂取基準
20	48・49・50	エネルギー代謝と食事摂取基準④	食品の選択と分類① 食品標準成分表
21	51・52	エネルギー代謝と食事摂取基準⑤	食品の選択と分類② 食品分類法
22	53・54・55	エネルギー代謝と食事摂取基準⑥	食品の選択と分類③ 食事バランスガイド
23	56・57	食品の特徴と性質①	穀類
24	58・59・60	食品の特徴と性質②	いもおよびでんぷん類
25	61・62	食品の特徴と性質③	砂糖および甘味料
26	63・64・65	食品の特徴と性質④	野菜類
27	66・67	食品の特徴と性質⑤	果実類
28	68・69・70	食品の特徴と性質⑥	きのこ類
29	71・72	前期期末試験	前期期末筆記試験
30	73・74・75	試験結果フォローアップ	前期期末試験フォローアップ、前期のまとめ
31	76・77	食品の特徴と性質⑦ 植物性食品とその加工品	藻類
32	78・79・80	食品の特徴と性質① 動物性食品とその加工品	魚介類
33	81・82	食品の特徴と性質② 動物性食品とその加工品	食肉類
34	83・84・85	食品の特徴と性質③ 動物性食品とその加工品	卵類
35	86・87	食品の特徴と性質④ 動物性食品とその加工品	乳類
36	88・89・90	その他の食品①	油脂類
37	91・92	その他の食品②	菓子類
38	93・94・95	その他の食品③	嗜好品飲料類
39	96・97	その他の食品④	調味料及び香辛料類
40	98・99・100	その他の食品⑤	調理加工食品類
41	101・102	その他の食品⑥	ゲル状食品
42	103・104・105	その他の食品⑦	特別用途食品、保健機能食品
43	106・107	食品の加工と貯蔵①	食品の加工の目的
44	108・109・110	食品の加工と貯蔵②	食品の加工法
45	111・112	食品の加工と貯蔵③	微生物の利用
46	113・114・115	食品の加工と貯蔵④	食品の貯蔵の目的
47	116・117	食品の加工と貯蔵⑤	食品の貯蔵法
48	118・119・120	食品の生産と流通①	国産の食品の生産
49	121・122	食品の生産と流通②	海外から輸入される食品
50	123・124・125	食品の生産と流通③	食品の流通の仕組み
51	126・127	食品の生産と流通④	各食品の流通経路
52	128・129・130	健康づくりの食事プラン①	食品の組み合わせ、献立の種類、日本人の食事摂取基準に則った献立作成
53	131・132	健康づくりの食事プラン②	食事摂取基準の活用、生活習慣病の予防のための食事改善(PCDAサイクル)
54	133・134・135	健康づくりの食事プラン③	対象特性、生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連
55	136・137	健康づくりの食事プラン④	演習・献立作成①
56	138・139・140	健康づくりの食事プラン⑤	演習・献立作成②
57	141・142	まとめ①	模擬試験、フォローアップ
58	143・144・145	まとめ②	模擬試験、フォローアップ
59	146・147	後期期末試験	後期期末筆記試験
60	148・149・150	試験結果フォローアップ	後期末試験フォローアップ、前期のまとめ
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	調理理論と食文化概論		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	松井理紗		
実務経験	有	実務経験内容	専門調理師。飲食業界において7年間の経験の後、調理師養成施設に於いて調理師の育成に携わる。
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> • 食品の調理特性や調理法、世界各国の食文化や料理の特徴を時系列に沿って学び調理に関する知識を理論的に理解する。 • 時代の変遷に伴って多様化している食文化の変化を理解し、現代の食を取り巻く環境に関することを学び、食文化の未来について考える。 • 食文化の継承者としての調理師の役割を認識する。 		
到達目標	調理師免許取得		
授業運営方法	講義形式		
教科書	新調理師養成教育全書 4調理理論と食文化概論 全国調理師養成施設協会		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	調理の目的、おいしさの構成①	調理とは。調理理論を学ぶ意義
2	4・5・6	おいしさの構成②	食べ物の側にある要因。味の相互作用
3	7・8・9	おいしさの構成③	物理的要因、化学的要因
4	10・11・12	おいしさの構成④	食べる人の側にある要因
5	13・14・15	調理の基本操作①	非加熱調理操作①計量、洗浄、浸漬、切碎
6	16・17・18	調理の基本操作②	非加熱調理操作②混合、かくはん、磨砕、粉碎、成形、圧搾、ろ過、冷却、冷凍、解凍
7	19・20・21	調理の基本操作③	加熱調理操作：湿式加熱、乾式加熱、誘電加熱、誘導加熱
8	22・23・24	食品調理科学（植物性食品①）	穀類：米
9	25・26・27	//（植物性食品②）	米粉、小麦粉、そば
10	28・29・30	//（植物性食品③）	いも類、でんぷん類
11	31・32・33	//（植物性食品④）	砂糖
12	34・35・36	//（植物性食品⑤）	豆類・種実類
13	37・38・39	期末試験前対策	期末筆記試験対策
14	40・41・42	前期期末試験	前期期末試験
15	43・44・45	試験結果フォローアップ	前期期末試験フォローアップ、前期のまとめ
16	46・47・48	//（植物性食品⑥）	野菜類
17	49・50・51	//（植物性食品⑦）	果実類・きのこ類・藻類
18	52・53・54	//（植物性食品⑦）	果実類・きのこ類・藻類
19	55・56・57	//（動物性食品①）	魚介類の調理特性
20	58・59・60	//（動物性食品②）	食肉類の調理特性
21	61・62・63	//（動物性食品③）	食肉類の部位
22	64・65・66	//（動物性食品④）	卵類の調理特性
23	67・68・69	//（動物性食品⑤）	乳類の調理特性
24	70・71・72	//（動物性食品⑥）	乳製品
25	73・74・75	//（その他の食品①）	油脂類
26	76・77・78	//（その他の食品②）	調味料、食塩
27	79・80・81	//（その他の食品③）	ゲル状食品：寒天、ゼラチン、カラギーナン、ペクチン
28	82・83・84	期末試験前対策	期末筆記試験対策
29	85・86・87	後期期末試験	前期期末筆記試験
30	88・89・90	試験結果フォローアップ	後期末試験フォローアップ、後期のまとめ
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	生活・実習指導		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	担任		
実務経験	有	実務経験内容	レストラン・ホテルにてメニュー作成、計数管理、衛生管理、人材育成等に従事。
講義概要	1年次から調理師の業界事情触れ、職業人として生きていくために同じ夢を持つ仲間たちとの意見交換の場とする。		
	社会で注目されている出来事や、流行をテーマとし、グループワークを通して、社会に目を向け、卒業後に進んでいく世界に対する視野を広げる。		
到達目標	学生生活における基本的知識を理解する。		
	また学内ルール等を理解することにより社会性を身に付ける。		
	クラス運営を通じ、組織での自分の在り方、チームワークの重要性を認識する。		
授業運営方法	講義形式 内容により個人ワークとグループワーク形式も実施する。		
教科書	なし 適宜資料配布		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	オクレンジャー登録・日直について・クラス委員	クラス運営、学生の役割分担等の理解。実習等実施に向けての案内、心構え、実習マニュアルの理解
2	2	ロッカー室の使用注意・授業の受け方	ロッカー室・更衣室の使用法・実習のノートの取り方、向き合い方
3	3	身だしなみ	学園生活・就職に向けての身だしなみの確認・GW過ごし方
4	4	実習室の日直の仕事について	現場の感覚を身につけよう・先輩方の来る前に準備をする
5	5	企業実習・社会体験の理解	スクールライフマニュアルの活用、マナー指導
6	6	健康管理(自己管理)	日々の過ごし方・休日等
7	7	ロッカー室の使用注意・授業の受け方	確認。日直の仕事。座学時の授業の向き合い方
8	8	実習授業について①	再度確認(挨拶・身だしなみ・立ち振る舞い)
9	9	学園(学校)ルールの確認	2か月経ち・自分自身どうか
10	10	学園(学校)ルールの確認②	有意義な学園生活を送る為に、ルールの確認
11	11	実習授業について	技術向上のために必要なこと(予習・復習・練習)
12	12	学園(学校)について	ルールのおさらい・日々の自身の環境など、先生(講師)などへの態度どうか
13	13	期末試験のついて	試験への準備・当日の持ち物など確認
14	14	夏休みの過ごし方・後期の予定	夏休みの活用・学園祭について
15	15	授業改善アンケート	受講した各授業に対するアンケート実施
16	16	夏休みどうすごしたか・・・	どう夏休みをすごしたか?・もう一度、ルールの徹底 初心の戻ろう
17	17	学園祭について	学園祭役割分担・メニュー決定・販売数・衛生管理を確認
18	18	学園祭について②	学園祭役割分担・メニュー決定・販売数・衛生管理を確認②
19	19	学園祭について③	グループワークでの意見交換・役割等の確立
20	20	学園祭について④	販売方法の意見交換と確立
21	21	学園祭について⑤	学園祭での衛生観念の理解.最終確認
22	22	学園祭を終えて	学園祭を終えて 良かったところ 来年はもっとこんなことをしたい等
23	23	生活習慣について	社会人になる前に、時間管理を意識し自身を見つめなおす。
24	24	実習授業について①	日直班、デモ時の向き合い方、班での共同作業性、衛生管理について
25	25	身だしなみ②	2年生になる前に面接での自身の身だしなみ、挨拶、立ち振る舞い
26	26	冬休みの過ごし方	何をするか?どう過ごすか?個々に目標設定
27	27	学園(学校)ルールの確認③	学園生活にも慣れ、自身で緩んではないか?もう一度初心に戻ってみよう
28	28	2年生に向けて	来年度は先輩としての立ち振る舞い、技術面、予習・復習・練習
29	29	2年生に向けて②	自身で将来について・社会人になる前に出来ること
30	30	振り返り	1年間をすごして2年生へ向けて・授業改善アンケート
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	食品の安全と衛生		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期75時間・後期75時間
担当者	恩田 麻衣		
実務経験	有	実務経験内容	管理栄養士として保育園で献立作成、調理食育指導、調理従事者への衛生指導。特定健康指導員として栄養指導、健康指導業務に従事。
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・食品と微生物の関わりについて理解する。 ・食品に関する化学物質についての知識を深める。 ・飲食による健康危害の種類と内容についての知識を深める。 ・食品に関わる法律、制度、組織について学ぶ。 		
到達目標	調理師免許取得、技術審査合格		
授業運営方法	実習形式		
教科書	新調理師養成教育全書 3食品の安全と衛生 全国調理師養成施設協会		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	食の安全と衛生①	食の安全を守る
2	4・5	食の安全と衛生②	食の安全を脅かす要因
3	6・7・8	食の安全と衛生③	食の安全確保のしくみ
4	9・10	食の安全と衛生④	食品衛生とは
5	11・12・13	食の安全と衛生⑤	食品衛生と調理師の責務
6	14・15	食品と微生物①	微生物の種類
7	16・17・18	食品と微生物②	微生物の増殖条件
8	19・20	食品と微生物③	食品の微生物汚染
9	21・22・23	食品と微生物④	腐敗とは
10	24・25	食品と微生物⑤	腐敗に関する微生物
11	26・27・28	食品と微生物⑥	腐敗の化学
12	29・30	食品と化学物質①	食品添加物の概要
13	31・32・33	食品と化学物質②	食品添加物と食品衛生関係法規
14	34・35	食品と化学物質③	食品添加物の安全性の評価
15	36・37・38	食品と化学物質④	主な食品添加物とその用途
16	39・40	食品と化学物質⑤	ヒ素および重金属
17	41・42・43	食品と化学物質⑥	主な有毒元素
18	44・45	食品と化学物質⑦	放射能
19	46・47・48	食品と化学物質⑧	放射性物質の基準値
20	49・50	食品と化学物質⑨	放射線照射食品
21	51・52・53	器具・容器包装の衛生①	器具・容器包装の衛生
22	54・55	器具・容器包装の衛生②	器具・容器包装の取り扱い
23	56・57・58	飲食による健康危害①	飲食による健康危害の種類
24	59・60	飲食による健康危害②食中毒	食中毒菌の分類
25	61・62・63	飲食による健康危害③食中毒	食中毒の発生状況：食中毒の概況、食中毒の発生と季節
26	64・65	飲食による健康危害④食中毒	食中毒の起こりやすい食品、食中毒の病因物質
27	66・67・68	飲食による健康危害⑤食中毒	食中毒の原因施設、大規模食中毒の発生状況、細菌性食中毒：感染型食中毒
28	69・70・71	前期期末試験	前期期末筆記試験
29	72・73	試験結果フォローアップ	前期末試験フォローアップ、前期のまとめ
30	74・75・76	食品衛生実習①	ガラス測定器具の使い方、食品のpH測定
31	77・78・79	飲食による健康危害⑦食中毒	食品内毒素型食中毒：ブドウ球菌食中毒、ボツリヌス食中毒
32	80・81	飲食による健康危害⑧食中毒	生体内毒素型食中毒：ウエルシュ菌食中毒、セレウス菌食中毒
33	82・83・84	飲食による健康危害⑨食中毒	細菌性食中毒の予防
34	85・86	飲食による健康危害⑩食中毒	ウイルス性食中毒
35	87・88・89	飲食による健康危害⑪食中毒	自然毒食中毒：動物性自然毒 自然毒食中毒：植物性自然毒
36	90・91	飲食による健康危害⑬食中毒	化学性食中毒、寄生虫による食中毒
37	92・93・94	経口感染症	経口感染症とは、経口感染症と食中毒
38	95・96	食品衛生実習②	生卵の鮮度判定
39	97・98・99	食品衛生実習③	魚介類の鮮度判定
40	100・101	植物アレルギー	植物アレルギーとは、植物アレルギーの種類
41	102・103	その他の健康危害	BSE、鳥インフルエンザ、農薬及び動物医薬品等の残留
42	104・105・106	食品安全対策	食品安全対策とは、食品安全対策にかかわる法律、食品安全委員会
43	107・108・109	食品衛生実習④	魚肉練り製品の鮮度・品質判定、
44	110・111	食品安全情報の共有①	食品表示とは、食品表示法、加工食品の食品表示、生鮮食品の食品表示、その他の法律による表示
45	112・113・114	食品衛生実習⑤	食肉の鮮度判定
46	115・116	食品営業施設・設備の安全対策①	食品営業施設・設備の衛生管理、給水及び排水・廃棄物処理
47	117・118・119	食品衛生実習⑥	手指洗浄前・洗浄後の汚れ状態の検査
48	120・121	調理従事者の健康管理	病原微生物保有者の把握、食品衛生責任者
49	122・123・124	調理作業時における安全対策①	食材の衛生管理：食品簡易鑑別法、異物混入防止、手洗い
50	125・126	調理作業時における安全対策②	洗浄・消毒・殺菌、：物理的方法、化学的方法
51	127・128・129	食品衛生実習⑦	牛乳の鮮度判定
52	130・131	自主衛生管理HACCP	HACCPとは：衛生管理の従来方式とHACCP方式の比較
53	132・133・134	食品事故対応	食中毒発生の事例検証
54	135・136	食品衛生実習⑧	食品の内部温度の測定
55	137・138・139	食品衛生実習⑨	手指洗浄前・洗浄後の汚れ状態の検査
56	140・141	食品衛生実習⑩	調理器具・食器洗浄後の汚れの状態の検査、
57	142・143・144	後期期末筆記試験	
58	145・146	試験結果フォローアップ	後期期末試験フォローアップ、後期のまとめ
59	147・148	食品衛生実習⑪	空中浮遊微生物の測定
60	149・150	食品衛生実習⑫	食品からの各種細菌の検出（簡易検査法）
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	ホスピタリティ		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期 15時間・後期15時間
担当者	黒坂 明子		
実務経験		実務経験内容	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティー精神を身に付ける ・「もてなし」の行動や考え方を通し、接客・接遇の場面でのホスピタリティーを理解する。 ・主客の両方がお互い満足し、それによって信頼関係を強め、共に価値を高めていく「共創」の理解。 ・「ホスピタリティー」と「サービス」の違いを理解する。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆるタイプの人とも上手に交流できるようになる。 ・周りから見られている自分のイメージを確認し、自己改善を図る。 ・おもてなしの心を形に出来るようになる。 		
授業運営方法	講義/演習形式		
教科書	ホスピタリティーマインド 養成ワークブック		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	ホスピタリティーの理解	ホスピタリティーの定義の理解・ゴールの確認
2	2		
3	3	自分探しの旅 I	他己紹介・絵による自己表現
4	4		
5	5	自己理解・自己受容	心理学による自己分析・自分を知る
6	6		
7	7	プラス思考の重要性	マイナス思考とプラス思考の違いを考える
8	8		
9	9	気づきと自己改善の勧め	マイナス思考に陥った場合の対処行動
10	10		
11	11	ホスピタリティーマインドの確立	価値観とは・自分の物の見方や考え方を知る
12	12	【相手を知る】事の重要性	
13	13		他者理解/他者受容の重要性
14	14	前期期末試験	前期期末筆記試験実施
15	15	前期まとめ	前期フィードバック・前期まとめ
16	16	後期スタート	前期振り返り・ホスピタリティーの再確認
17	17	ホスピタリティーマインドの発揮	他者から見る自分のイメージを知る
18	18		
19	19	自画像と他画像の違い	印象ゲーム
20	20		
21	21	豊かな触れ合いのために	ストローク（触れ合い）の理解
22	22		
23	23	温かい交流のために	ストローク演習/DVD鑑賞
24	24		
25	25	ホスピタリティーサービスの本質	モノ的なサービス・ヒト的なサービス/CSとお客様心理
26	26		
27	27	おもてなしについて	ディズニーにおける、おもてなしとは/おもてなしの心を形に
28	28		
29	29	後期期末試験	後期期末筆記試験実施
30	30	後期まとめ	1年間の振り返りとまとめ
[評価の方法]			
<p>必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。</p>			

科目名	調理実習 (西洋)		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期60時間・後期60時間
担当者	白熊 佳和、高橋 麻衣子		
実務経験	有	実務経験内容	白熊：専門調理師。ホテルに於いて料理長としてメニュー作成、衛生管理従事。 高橋：ホテルにおいて洋食調理に従事 (レストラン・カフェ・宴会・ブライダル・鉄板焼き等)
[講義概要]	<ul style="list-style-type: none"> 西洋料理の基本を復習し高度な料理に応用する調理技術を学ぶ。 調理器具の使い方や火加減の調節を繰り返し学ぶ事で、プロとして通用する技術習得に努める。 魚や肉などの食材の下処理や基本の調理法を理解し、それをを基に高度な調理法に発展させる。 西洋料理で使用するフォン (出し汁) の取り方を理解し、ソースやポタージュへの展開を体系的に理解する。 基本調理操作の反復練習により、基本の重要性を理解し、自然と作業が進められるようになるレベルを目指す。 		
[到達目標]	<ul style="list-style-type: none"> 調理を行う際に必要な技術・知識の習得及び、衛生観念を身に着ける。 挨拶、礼儀を身につける。 調理技術の基本、包丁、鍋フライパンの使い方を習得する。 		
授業運営方法	実習形式		
教科書	新調理師養成教育全書 5調理実習 全国調理師養成施設協会		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3・4	実習室の使い方西洋料理の調理器具	実習室、調理器具の説明。ナイフの種類と研ぎ方、使い方と姿勢。
2	5・6・7・8	包丁の研ぎ方、野菜の切り方練習	包丁研ぎ、姿勢、野菜で切る練習 (サラダ・ドレッシング)
3	9・10・11・12	野菜の切り方①	試験課題発表・各種野菜の切り方 (ジュリアン、エマンセ、アッシュ) ・パスタ
4	13・14・15・16	野菜の切り方②、基本のフォン	野菜のスープ・チキンブイヨン (フォンブラン) ・基本の野菜の切り方復習 (試験課題)
5	17・18・19・20	野菜の切り方③、基本のソース①	各種野菜の切り方 (試験課題を含む) マヨネーズソース、サンドウィッチ (2種)
6	21・22・23・24	野菜の切り方④、基本のソース②	コールスローサラダ・フレンチドレッシング・マカロニグラタン (ベシャメル)
7	25・26・27・28	模擬試験・サラダ・ポッシュ	模擬試験 (オニオンエマンセ) ・ポーチドエッグのサラダ
8	29・30・31・32	魚介類の扱い方①	魚介のエスカベッシュ・ムニエル (ブルノワゼットなど)
9	33・34・35・36	魚介類の扱い方②	マリネサーモン・スモークサーモンのオードブル
10	37・38・39・40	魚、肉類の保存調理	マリネサーモンのポワレ・ボークリエット
11	41・42・43・44	肉類の保存調理・バターライス	ボークリエット・チキンピラフ・フライパン練習
12	45・46・47・48	基本のスープ・卵料理	ジャガイモのスープ・スクランブルエッグバスク風 (ピペラード)
13	49・50・51・52	基本のスープ②	人参のポタージュ・真鱈のパネ、ラタトゥイユとトマトのソース
14	53・54・55・56	期末試験	オニオンエマンセ
15	57・58・59・60	期末試験の振り返り	オニオンエマンセ (試験課題) ・オニオンスープ
16	61・62・63・64	後期試験課題発表・野菜料理	試験課題デモ (ラタトゥイユ) カボナータ・カプレーゼ
17	65・66・67・68	煮込み料理・卵料理	ポトフ・シャトー剥き・ポーチドエッグのフロランタン
18	69・70・71・72	基本のフォン②・基本のソース③	ビーフコンソメ・野菜の切り方・オムレツ練習
19	73・74・75・76	温製オードブル・基本のフォン復習	インヴォルティエニ・トマトのグラタン・小いかの詰め物・チキンブイヨンなど
20	77・78・79・80	基本のスープ③・基本のだし	オニオングラタンスープ・フュメドボワソン・帆立貝のグラタン
21	81・82・83・84	魚の卸し方・基本のソース④	白身魚のポッシュ、メダイヨン・白ワインソース・帆立のムース
22	85・86・87・88	魚料理・基本のソース⑤	サーモンムニエル・ブルブラン・マルガトニースープ
23	89・90・91・92	鶏肉の卸し方	フリカッセドブーレ・バターライス (復習) ・ガルニチュール
24	93・94・95・96	基本のソース⑥・基本のパスタ	フォンドヴォーの作り方・パスタ生地・パスタソース (ミートソース)
25	97・98・99・100	肉類の扱い方	仔牛のエスカロップ、茸のアラクレーム、ほうれん草入りスープ
26	101・102・103・104	卵料理・基本の野菜料理	プレーンオムレツ・ラタトゥイユ・若鶏のマレンゴ風
27	105・106・107・108	古典料理 (煮込み)	豚肉のグランメール風 (ボムノワゼット・ペコロスグラッセ) ・試験課題練習
28	109・110・111・112	牛肉料理	ビーフストロガノフ・サラダニソワーズ・オムレツ練習
29	113・114・115・116	後期実技試験	後期期末 技術試験 (ラタトゥイユ) ストロガノフ復習
30	117・118・119・120	後期まとめ	後期フィードバック・2年生に向けて
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	調理実習(日本)		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	高岡 寿康・伊藤 芳浩		
実務経験	有	実務経験内容	高岡：調理師。日本料理店に於いて料理長として献立作成、計数管理、衛生管理、人材育成に従事する。 伊藤：ホテル、レストラン等飲食業界において、シェフとして献立作成、計数管理、衛生管理、人材育成等に携わった経験有
[講義概要]	<ul style="list-style-type: none"> ・日本料理に使用する和包丁の使用方、研ぎ方を学び、和包丁の特性を理解し調理する。 ・野菜の基本的な切り方や剥き方を学ぶ事によって、日本料理の基本技術を身に付ける。 ・基本の出汁の取り方を学ぶ事によって、椀物や煮物への応用を学び、日本料理の体系的な調理法を理解する。 ・基本調理操作の反復練習により、基本の重要性を理解し将来に備える。 		
[到達目標]	<ul style="list-style-type: none"> ・調理を行う際に必要な技術・知識の習得及び、衛生観念を身に着ける。 ・挨拶、礼儀を身につける。 ・調理技術の基本、包丁、鍋フライパンの使い方を習得する。 		
授業運営方法	実習形式		
教科書	新調理師養成教育全書 5調理実習 全国調理師養成施設協会		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	基本包丁技術① 基本調理法①	和包丁を中心に調理器具の説明。包丁研ぎ実践①
2	4・5・6	基本包丁技術② 基本調理法②	包丁研ぎ実践②野菜の切り方①
3	7・8・9	基本包丁技術③ 基本調理法③	野菜の切り方②(桂剥き・六方剥き・織切り・短冊切り・拍子切り・銀杏切り)
4	10・11・12	基本のだし汁、魚介類の調理①	1番出し・2番出し・魚の3枚卸し・酢の物 前期試験課題発表
5	13・14・15	基本のだし汁②・炊飯・揚げ物①	1番出し・炊飯(土鍋)・魚の天茶
6	16・17・18	酢の物・和え物	酢の物・白和え・ぬた和え・煮びたし
7	19・20・21	焼き物①・炊飯	味噌焼きおにぎり・鰯の吸い物
8	22・23・24	魚料理	魚の塩焼き(串打ち)・だし巻き玉子
9	25・26・27	焼き物・蒸し物	鰯のさんが焼き・玉子豆腐
10	28・29・30	模擬試験	鰯の3枚卸し
11	31・32・33	煮物	魚を使用した煮付料理(カレイの煮付など)
12	34・35・36	揚げ物	季節の素材を使用した天ぷら(海老・鰯・南瓜・舞茸・茄子)
13	37・38・39	煮物②	里芋のオランダ煮・イカ飯など
14	40・41・42	基本技術試験	鰯の3枚卸し
15	43・44・45	前期まとめ	前期フィードバック 切り方練習など
16	46・47・48	前期復習	前期復習(天婦羅)・出し汁・うどん 後期試験課題発表
17	49・50・51	秋刀魚料理・和え物	秋刀魚の照り焼き・茸のちり酢和え・炊飯
18	52・53・54	秋鮭料理	鮭と茸の炊き込みご飯・吸い物
19	55・56・57	前菜・炊飯	野菜の胡麻和え・茶碗蒸し(銀杏)
20	58・59・60	季節料理(焼き物)	鰯の照り焼き・あしらい・炊飯・味噌汁
21	61・62・63	すき鍋料理	豚すき鍋・炊飯
22	64・65・66	季節料理(揚げ物・蒸物)	鯛のかぶら蒸し・鶏肉のみの揚げ
23	67・68・69	お寿司・吸い物	握り寿司・細巻き寿司・吸い物
24	70・71・72	模擬試験	油なます・里芋とイカの煮物
25	73・74・75	正月料理(和え物・酢物)	口取り・酢の物(茸の菊花浸し・温州和え・イクラなます)
26	76・77・78	正月料理(煮物)	炊き合わせ(里芋・海老・人参・小松菜)
27	79・80・81	正月料理(焼物)	焼き物(カマス)・あしらい(菊花蕪)・松風焼
28	82・83・84	松花堂弁当	各種料理 吸い物
29	85・86・87	後期技術試験	大根桂剥き(妻打ち)・里芋六方剥き
30	88・89・90	後期のまとめ	後期フィードバック・2年生に向けて
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	調理実習(中国)		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次・前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	今井 康隆		
実務経験	有	実務経験内容	レストラン・ホテルに於いて料理長としてメニュー作成、衛生管理従事。
【講義概要】	<ul style="list-style-type: none"> 中国料理の献立構成を学び、体系的に中国料理を理解する 代表的な中国料理を調理し、食材の下処理、調理法、仕上げ方の基本プロセスを習得する。 中国の主な地方の料理を学び、それぞれの調理法や味付けの特徴を理解する。 中国料理にも広まってきている銘々盛なども習得する 日本に四季にあった食材を用いて、様々な調理法を習得する 		
【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> 調理を行う際に必要な技術・知識の習得及び、衛生観念を身に着ける。 挨拶、礼儀を身につける。 調理技術の基本、包丁、鍋フライパンの使い方を習得する。 		
授業運営方法	実習形式		
教科書	新調理師養成教育全書 5調理実習 全国調理師養成施設協会		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	中国料理の基本	中国料理の歴史・実習室の説明・授業の流れ・器具の説明・包丁の説明・包丁研ぎ
2	4・5・6	基本技術①切り方	切り方のデモンストレーション 末・糸・丁・片・塊
3	7・8・9	基本技術②切り方2・鍋の使い方	野菜の切り方
4	10・11・12	基本技術③毛湯について	毛湯の仕込み・スープの展開(もみじ・鶏ガラ)
5	13・14・15	基本技術④切り方・盛り付け	肉の下処理 胡瓜の切り方
6	16・17・18	基本技術⑤鍋加工 炸・炒	鶏もも肉切り(丁) 炒
7	19・20・21	実技試験模擬	糸切り
8	22・23・24	基本技術⑥揚・煮	油の温度管理・煮込みの火加減・調味料の変化
9	25・26・27	基本技術⑦炒	旬の中国野菜炒め 上海料理と広東料理の違い
10	28・29・30	基本技術⑧蒸	蒸し器の使い方 時間・仕上げの確認方法
11	31・32・33	基本技術⑨炸	揚げ油の使い方 揚げ温度、時間、仕上がり確認
12	34・35・36	基本技術⑩炒	炒める際の油の使い方・鍋の振り方
13	37・38・39	基本技術⑪焼・炒	麺の下ごしらえ 調味料、鍋の使い方
14	40・41・42	前期実技試験	前期期末試験
15	43・44・45	前期実技試験のフィードバック	試験のフィードバック、前期の復習
1	46・47・48	前期復習	切り方 鍋ふり復習 炒飯
2	49・50・51	基本技術⑫点心(冷・炸)	ゼラチンの使い方 揚げ油の温度管理
3	52・53・54	基本技術⑬炒・上漿	各種調味料の使い方 肉の下処理方法
4	55・56・57	基本技術⑭揚・煮	各種材料の下ごしらえ・油の温度管理・煮物の火加減
5	58・59・60	基本技術⑮湯・伴・麺	茹で時間・和え方の調味料の使用法
6	61・62・63	基本技術⑯蒸	魚の蒸し方 仕上げの油の使用法
7	64・65・66	実技試験模擬	蛋炒飯
8	67・68・69	基本技術⑰上漿・炒	魚介の下処理
9	70・71・72	基本技術⑱炒・炸	肉の下処理 炸→炒
10	73・74・75	基本技術⑲炸+炒	材料の下処理 調味料の合わせ方
11	76・77・78	基本技術⑳炒	青菜炒飯 (搦菜使用)
12	79・80・81	基本技術㉑乾物の使い方	冬筍・冬菇を使った料理
13	82・83・84	基本技術㉒麺	麺の加工について 各種食材の下ごしらえ、加熱方法
14	85・86・87	後期実技試験	後期期末試験
15	88・89・90	後期実技試験のフィードバック	フィードバック、1年間のまとめ、2年生に向けて
【評価の方法】			
<p>必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。</p>			

科目名	総合調理実習		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	今井康隆	伊藤芳浩	高橋麻衣子
実務経験	有	実務経験内容	今井：レストラン・ホテルに於いて料理長としてメニュー作成、衛生管理従事。 伊藤：ホテル、レストラン等飲食業界において、シェフとして献立作成、計数管理、衛生管理、人材育成等に携わった経験有 高橋：ホテルにおいて洋食調理に従事（レストラン・カフェ・宴会・ブライダル・鉄板焼き等）
講義概要	衛生管理、献立・調理、食事環境、接客等を総合的に学ぶことにより、調理師の業務全体を理解する。 集団調理の基本技術を習得するとともに、食品、栄養と健康の関わりについて、調理を通して食事に調整する意義を理解する。		
到達目標	学校や病院などでの大量調理に役立つ基礎的な技術を学び、チームワークの重要性や衛生面に関する指導も行う。 就職しても直ぐに役に立つように、特別に完備された大量調理実習室で集団調理の授業。野菜の刻み方、大鍋を使用するの煮物、蒸し物、揚げ物などの場合の基礎的な技術をはじめ、調理器具の扱い方等も学ぶ。また運営上、一番大切なチームワークには特に注意をし各自分担された仕事には責任を担い、特に衛生面に関する指導は十分に指導する。		
授業運営方法			
教科書			
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	実習室の使い方	正しい身だしなみ、器具や機材の説明
2	4・5・6	衛生管理、Haccp、衛生設備他	実習前に覚えておくべき衛生管理等をふまえ基礎を学ぶ。
3	7・8・9	企業連携・正義刃物	和洋中包丁の材質や用途、研ぎ方（学生用包丁セットの付属品説明）
4	10・11・12	炊飯について	米の研ぎ方・浸水・水分量の計算・炊飯器の使い方・釜の洗い方・スチコンでの炊飯
5	13・14・15	企業連携・日清医療食品	衛生講義、食中毒菌について、手洗い検査の実施
6	16・17・18	基本的な野菜の切り方	キャベツの千切り含む、前期後期実技試験についても触れる
7	19・20・21	企業連携・ラショナル	スチコン機能の説明・ハンバーグ（フライパン不使用の調理法）
8	22・23・24	冷凍食品の扱い方	油の温度、芯温計の扱い方・前回復習、炊飯・味噌汁・キャベツの千切り
9	25・26・27	企業連携・シダックス	鶏肉のハーブパン粉焼き・新調理システムについて
10	28・29・30	真空調理の応用	チキンタツタバーガー（後期学園祭に向けて）
11	31・32・33	企業連携・シダックス	真空調理について・油で揚げない鶏肉の唐揚げ
12	34・35・36	企業連携・ラショナル・ジャパン	スチームコンベクションの機能を使った料理（応用編）
13	37・38・39	魚の揚げ方・温度管理	サーモンフライ・タルタルソース
14	40・41・42	期末試験	前期授業のまとめ
15	43・44・45	フィードバック	試験解説・学園祭について・メニュー案
16	46・47・48	学園祭に向けて	運営について メニュー決め
17	49・50・51	学園祭に向けて	メニュー決定 班分け 分担 販売目標
18	52・53・54	学園祭に向けて	原価計算 販売数・価格 発注 ポスター チケット作成
19	55・56・57	学園祭に向けて	試作・試食 ルセット調整 写真撮影
20	58・59・60	学園祭に向けて	当日を想定した運営 運営最終確認 保存方法の決定 仕込み
21	61・62・63	学園祭に向けて	仕込み
22	64・65・66	企業連携・日清医療食品	介護食 嚥下食 擬製豆腐 インストラクター デモ
23	67・68・69	献立作成NO,6P66~83	和) 主食・主菜 ※副菜・汁物・果物 いずれか1品 total3品の実習
24	70・71・72	献立作成から実習へ	洋) 主食・主菜 ※副菜・汁物・果物 いずれか1品 total3品の実習
25	73・74・75	献立作成から実習へ	中) 主食・主菜 ※副菜・汁物・果物 いずれか1品 total3品の実習
26	76・77・78	献立作成から実習へ	和) 主食・主菜 ※副菜・汁物・果物 いずれか1品 total3品の実習
27	79・80・81	献立作成から実習へ	洋) 主食・主菜 ※副菜・汁物・果物 いずれか1品 total3品の実習
28	82・83・84	献立作成から実習へ	中) 主食・主菜 ※副菜・汁物・果物 いずれか1品 total3品の実習
29	85・86・87	後期実技試験	後期期末実技試験
30	88・89・90	実技試験のフィードバック	フィードバック、1年間のまとめ、2年生に向けて
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	調理理論と食文化概論		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	松井理紗		
実務経験	有	実務経験内容	専門調理師。飲食業界において7年間の経験の後、調理師養成施設に於いて調理師の育成に携わる。
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> 食品の調理特性や調理法、世界各国の食文化や料理の特徴を時系列に沿って学び調理に関する知識を理論的に理解する。 時代の変遷に伴って多様化している食文化の変化を理解し、現代の食を取り巻く環境に関することを学び、食文化の未来について考える。 食文化の継承者としての調理師の役割を認識する。 		
到達目標	調理師免許取得		
授業運営方法	講義形式		
教科書	新調理師養成教育全書 4調理理論と食文化概論 全国調理師養成施設協会		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	調理施設・器具と熱源①	調理施設・設備とは 調理施設の仕組みについて学ぶ
2	4・5・6	調理施設・器具と熱源②	調理器具・非加熱調理器具 包丁などの器具について、冷凍冷蔵庫について
3	7・8・9	調理施設・器具と熱源③	調理器具・加熱調理器具・その他の器具 鍋などの器具について、オープンについて
4	10・11・12	調理施設・器具と熱源④	食器容器・陶磁器について
5	13・14・15	調理施設・器具と熱源⑤	食器容器・金属器、ガラス器、プラスチック器、木製器
6	16・17・18	調理施設・器具と熱源⑥	食器容器・和食器、洋食器、中国食器の特徴
7	19・20・21	調理施設・器具と熱源⑦	調理と熱源・熱源の種類 ガスコンロの特徴について
8	22・23・24	日本の食文化①	原始(縄文・弥生時代)の食文化
9	25・26・27	日本の食文化②	古代(古墳・飛鳥・奈良・平安時代)の食文化
10	28・29・30	日本の食文化③	近世(江戸時代)の食文化
11	31・32・33	日本の食文化④	近代(明治・大正・昭和時代)の食文化
12	34・35・36	日本の食文化⑤	現代(終戦以降)の食文化
13	37・38・39	期末試験前対策	期末筆記試験対策
14	40・41・42	前期期末試験	前期期末試験
15	43・44・45	試験結果フォローアップ	前期期末試験フォローアップ、前期のまとめ
16	46・47・48	日本料理の食文化①	日本料理の特徴・食事作法
17	49・50・51	日本料理の食文化②	食文化の地域制・郷土料理①
18	52・53・54	日本料理の食文化③	食文化の地域制・郷土料理②
19	55・56・57	現代の食生活と未来の食文化	食生活の現状・食文化の未来
20	58・59・60	食と文化①	食文化の成り立ち
21	61・62・63	食と文化②	多様な食文化・宗教と食物禁忌
22	64・65・66	食と文化③	食文化の共通化と国際化
23	67・68・69	世界の料理と食文化①	西洋料理の食文化・西洋料理の変遷
24	70・71・72	世界の料理と食文化②	西洋料理の食文化・西洋料理の特徴・食事作法
25	73・74・75	世界の料理と食文化③	中国料理の食文化・中国料理の変遷・特徴、食事作法
26	76・77・78	世界の料理と食文化④	その他の国の料理の食文化 アジアの料理・中東の料理
27	79・80・81	世界の料理と食文化⑤	その他の料理の食文化 中南米の料理・北欧の料理
28	82・83・84	期末試験前対策	期末筆記試験対策
29	85・86・87	後期期末試験	後期期末筆記試験
30	88・89・90	試験結果フォローアップ	後期末試験フォローアップ、後期のまとめ
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	素材学		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期30時間・後期30時間
担当者	高橋 麻衣子		
実務経験	有	実務経験内容	ホテルにおいて洋食調理に従事（レストラン・カフェ・宴会・ブライダル・鉄板焼き等）
講義概要	和洋中に通じる食材のなり立ちや旬について		
	素材を生かすための調味料や乾物、甘味料についても学ぶ		
	料理の様式や行事食との関連		
	食材の選び方や仕入れ方		
到達目標	素材の色と栄養素の関連や食と色の関係を学ぶ		
	各食材の成り立ちや旬を学ぶ。また、その組み合わせによる味の広がりや四季の表現を皿の上に描き出せる調理師を目指す。		
授業運営方法	講義形式		
教科書	オールフォト食材図鑑		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	塩・胡椒について	何故塩・胡椒をするのか
2	3・4	春野菜・山菜・魚	特徴と下処理について
3	5・6	鶏・卵・代表的な料理	調理実習より（復習もかねて）
4	7・8	貝類・米・餅	季節の貝類・端午の節句についての料理文化
5	9・10	牛・乳製品	調理実習より・部位別の扱い・代表料理
6	11・12	油脂類	分類と使用用途・特徴
7	13・14	豚から派生する食品	調理実習より・部位別の扱い・代表料理
8	15・16	ハラルフードについて	飲食業に就くものが知っておくべき事
9	17・18	イースト・植物ミルク	酵母・酵素について
10	19・20	ベジタリアン・ヴィーガン①	野菜料理について
11	21・22	ベジタリアン・ヴィーガン②	野菜料理について
12	23・24	夏野菜①・麺類について	七夕料理について
13	25・26	夏野菜②・スパイス&酢	季節の献立の組み方
14	27・28	前期期末試験	前期期末試験
15	29・30	前期まとめ	前期フィードバック
16	31・32	薬膳食材・スーパーフード	食材の特性・食養生や食育について
17	33・34	食育・食養生	食養生や食育について
18	35・36	和・洋・中 各料理の様式	酒・茶・器について
19	37・38	葉物野菜・秋野菜・魚類	種類と用途、料理に使われる役割について
20	39・40	果実の分類	栽培・収穫について
21	41・42	粟・豆類・ナッツ・小麦粉・米粉	乾物の使い方、粉の種類によるたんぱく質の違い
22	43・44	冬野菜・根菜・魚類	種類と用途、料理に使われる役割について
23	45・46	砂糖類（蜂蜜・メイプル）	天然・人工の違い
24	47・48	ワイン・ジビエ	ボジョレヌーボー
25	49・50	発酵について	発酵の仕組みについて
26	51・52	食と環境の言葉・遺伝子組み換え	食品表示を学ぶ
27	53・54	Xmas食材	食のテーマパーク
28	55・56	お節料理について	重箱の盛り付け
29	57・58	後期期末試験	後期期末試験
30	59・60	後期まとめ	後期フィードバック
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	外国語		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	飯塚 昌亨		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	・西洋、フランス料理分野における基本的な語学を学ぶ。		
	・接客用語や、日常の会話を中心に実践で役立つ語学を学ぶ。		
	・英語、フランス語を中心とした語学を幅広く学ぶ。		
到達目標	・挨拶を通して、英語、フランス語を学び、サービス業に役立つようになる。		
授業運営方法	講義形式		
教科書	英語：なし フランス語：新現場からの調理フランス語		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	導入編 I	授業のスケジュール 予定 進め方 (英語)
2	2	あいさつ 基本表現	あいさつと/客様の対応①
3	3	お客様への対応	お客様の対応② 受付から誘導
4	4	テーブルについて	来客へのいろいろな表現
5	5	食材のいろいろ	野菜・ハーブ 数字の表現
6	6	会話 I 注文	レストラン・カフェでの対応 オーダー・飲み物 実践的表現
7	7	会話 II 注文	レストラン・カフェでの対応 サラダやステーキなど料理の注文 実践的表現
8	8	会話 III 注文	レストラン・カフェでの対応 おすしの注文 実践的表現
9	9	会話 IV 注文	レストラン・カフェでの対応 料理のサービス 実践的表現
10	10	会話 V 会計をする	レストラン・カフェでの対応 会計時の関連表現
11	11	前期復習 I	重要表現を中心に復習 第1回から第4回
12	12	前期復習 II	重要表現を中心に復習 第5回から第7回
13	13	前期復習 III	重要表現を中心に復習 第8回から第10回
14	14	前期期末試験	前期期末筆記試験
15	15	前期まとめ	前期フィードバック 覚えて欲しい事の確認
16	16	導入編 I フランス語の決まり	授業のスケジュール 予定 進め方 (フランス語)
17	17	フランス語の特徴 スペルと発音	アルファベット 発音 女性名詞と男性名詞
18	18	deの使い方	重要単語 味覚や調味料
19	19	auの使い方	風味、～入り、～添え の表現 重要表現
20	20	形容詞の使う方	男性名詞と女性名詞につける形容詞 調理に関する単語
21	21	過去分詞と形容詞①	過去分詞と形容詞 数字の勉強
22	22	過去分詞と形容詞②	フランス語日常会話 あいさつ・別れのあいさつ・紹介する
23	23	過去分詞と形容詞の置く場所	フランス語日常会話 あいさつ・お礼・お礼を返す・ミニ会話
24	24	ソース名の書き方	メニュー/ソースの書き方 日常会話・調理場や職場での会話
25	25	レストランでの会話	レストラン・カフェでの対応 役立つ表現 日常使用する単語/曜日・季節・月
26	26	助動詞の使い方・疑問詞の使い方	日常会話で使える助動詞や疑問詞の使い方
27	27	後期復習 I	フランス語 第16回～第20回
28	28	後期復習 II	フランス語 第21回～第26回
29	29	後期期末試験	後期期末筆記試験
30	30	後期まとめ	後期フィードバック 覚えて欲しい事の確認
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	接客ベーシック		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	井部 有美子		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	・お客様への対応や接客マナーを学ぶ。		
	・接客対話練習や小テストを通じ、敬語の習得に努める。		
	・料理の説明や様々なケースを想定したロールプレイングを通じ、接客スキルを体得する。		
	・クレーム対応など実際の現場で直面するケースへの対応方法を、グループワークを通じ、自ら解決しようとする意識を養う。		
到達目標	・職場で「真心と思いやりの精神」を発揮できる人材育成を目指す。		
授業運営方法	講義形式		
教科書	なし		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	授業概要、プロ意識について	授業概要と授業内容の年間スケジュール、ありたい自分の姿を思い描く。
2	2	接客マナーの基本①	接客サービスの心構え 接客7大用語
3	3	接客マナーの基本②	挨拶練習、お辞儀の種類と内容
4	4	接客について考える	良い接客、悪い接客とは
5	5	顧客について	顧客とは、顧客満足度向上にむけて
6	6	敬語について①	敬語の基本
7	7	敬語について②	接客用語について
8	8	敬語について③	ビジネスに於ける敬語
9	9	接客ロールプレイング①	お出迎え、ご案内、オーダーを受ける
10	10	接客ロールプレイング②	お料理をお出しする、会計、お見送り
11	11	接客ロールプレイング③	お出迎え～お見送りまで
12	12	接客ロールプレイング④	お出迎え～お見送りまで(テスト)
13	13	前期のまとめ	前期のまとめ
14	14	前期期末試験実施	前期試験実施
15	15	期末試験フィードバック	期末試験解説 これまでのまとめ
16	16	電話対応①	電話対応の基本 電話での言葉遣いや表現
17	17	電話対応②	電話の受け方、かけ方の基本、練習
18	18	電話対応③	不在時の対応、伝言の承り方
19	19	電話対応④	電話で食事の予約を承る
20	20	電話対応⑤	これまでのまとめ
21	21	傾聴①	聴く姿勢、傾聴力の習得
22	22	傾聴②	共感表現の体験的理解
23	23	クレームについて①	クレームはなぜ起こるのか、クレーム対応の基本、NG
24	24	クレームについて②	クレームの事例とその対応方法
25	25	クレームについて③	クレームを信頼に変える
26	26	接客ロールプレイング⑤	想いをお客さまに届ける
27	27	接客ロールプレイング⑥	想いをお客さまに届ける
28	28	接客ロールプレイング⑦	想いをお客さまに届ける
29	29	後期期末試験実施	後期期末試験
30	30	期末試験フィードバック	期末試験解説 これまでのまとめ
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	サービス業界総論		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期30時間・後期30時間
担当者	三村 明栄		
実務経験	有	実務経験内容	ホテルにて宴会予約・ウェディングプランナー、宣伝広報に従事。その後、ペット同伴ホテルの立ち上げ経験
講義概要	サービス業はお客様に対して、何らかのサービスを提供する業種を指します。ホテル業や飲食業を中心に学んでいきますが、サービス業は9つに分かれており、医療関係・教育関係もサービス業に分類されます。		
	お客様の顔を見ることで、良いことも悪いことも直接わかります。だからこそやりがいを感じられる業種でもあります。		
	この科目では、幅広いサービス業と相手に喜んでもらうためのおもてなし力を学びます。		
到達目標	・サービス業についての幅広い知識		
	・日本のおもてなしについて		
授業運営方法	演習形式		
教科書	・ホテル業界就職ガイド2023(オータパブリケーション)		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	サービス業に就くということ	サービス業とは
2	3・4	おもてなしの基本	おもてなしの3つの基本
3	5・6	いただきますとごちそうさま	語源と意味合い 料理を作る自分たちだから考えること
4	7・8	コミュニケーションとは	話し方の気遣いと聞き方の気遣い
5	9・10	自分の夢を叶えるために	ライフプランを考え夢を叶えるために何をしなければいけないか目標設定をする
6	11・12	チーム力とディスカッション力	ブレスト法を用いてみんなで意見を出し合いまとめていく方法などを身につける
7	13・14	ホテルとは何か	ホテルの基礎知識と日本には世界にはどのようなホテルがあるのかを学ぶ
8	15・16	ホテル産業の特徴と歴史	ホテルなどの宿泊施設の歴史や特徴
9	17・18	ホテルの分類	機能別のホテルやグレード・ホテルブランドについて
10	19・20	ホテルに宿泊する際の基礎知識	客室タイプや眺望、チェックインアウトなどのシステムを理解する
11	21・22	ホテルの組織と職種①	宿泊・料飲の部門を知る
12	23・24	ホテルの組織と職種②	宴会・管理の部門を知る
13	25・26	ホテルの組織と職種③	営業・調理の部門を知る
14	27・28	前期期末試験	期末試験
15	29・30	試験結果フォローアップ	フォローアップとまとめ
16	31・32	チームビルディングとは	チームとグループの違い
17	33・34	サプライズとは	サプライズの意味 人を喜ばせる大切さ
18	35・36	宣伝広告について	写真の撮り方とSNSについて
19	37・38	レストランイベントを企画プレゼン	ホテルで集客を図るためのレストランイベントを考えてプレゼンする
20	39・40	レストランイベントを企画プレゼン	ホテルで集客を図るためのレストランイベントを考えてプレゼンする
21	41・42	レストランイベントを企画プレゼン	ホテルで集客を図るためのレストランイベントを考えてプレゼンする
22	43・44	レストランイベントを企画プレゼン	ホテルで集客を図るためのレストランイベントを考えてプレゼンする
23	45・46	レストランイベントを企画プレゼン	ホテルで集客を図るためのレストランイベントを考えてプレゼンする
24	47・48	ユニバーサルおもてなし	障がいを持った方に対する気遣い
25	49・50	ユニバーサルおもてなし	障がいを持った方に対する気遣い
26	51・52	異文化おもてなし	文化的・宗教的タブーについて
27	53・54	レストランを作る	開業届から物件を探す
28	55・56	レストランを作る	クラウドファンディングと資金
29	57・58	テスト	期末試験
30	59・60	まとめ	フォローアップまとめ
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	生活・実習指導		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期15時間・後期15時間
担当者	担任		
実務経験	有	実務経験内容	レストラン・ホテルにてメニュー作成、計数管理、衛生管理、人材育成等に従事。
講義概要	・職業人として生きて行く為に、同じ夢を持つ仲間との意見交換の場とする。		
	・2年次では社会に目を向ける機会を増やし、卒業後に進んでいく世界に対する視野を広げていく。		
	・後期では学園祭や卒業制作に向け、クラスの仲間とのグループワークでイベントなどの運営を考えます。		
到達目標	・日々の課題と向き合い解決する力を身に付ける。		
	・グループワークを通して、仲間との連携を高める。		
授業運営方法	講義形式		
教科書	なし		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1	オクレンジャー・日直・クラス委員	学校生活の連絡方法・学生の役割分担等の理解。クラス運営・クラスリーダー・行事委員決定
2	2	身だしなみ・オンライン授業について	学園生活・就職に向けての身だしなみの確認・オンライン授業について①・エレベーターの使用
3	3	飲食業界について	業界の著名人を知る
4	4	自分自身の想像	卒業に向けての大きな目標を決める
5	5	実習授業について①	再度確認(挨拶・身だしなみ・立ち振る舞い)・高良シェフを知る
6	6	就職活動について	就職活動でどのように自己アピールなどをするか
7	7	実習授業について②	技術向上のために必要なこと(予習・復習・練習)・中村孝明料理長を知る
8	8	学園(学校)ルールの確認	有意義な学園生活を送る為に、ルールの確認・陳建一料理長を知る
9	9	学園(学校)ルールの確認②	有意義な学園生活を送る為に、ルールの確認②・オンライン授業について②
10	10	実習授業について③	ルセットの大切さ
11	11	飲食業界について②	有名店などを調べ意見交換・食べ歩きなどの大切さ
12	12	各行事運営に向けて	学園祭に向けて(役割分担の確立・メニューについて)
13	13	各行事運営に向けて②	学園祭に向けて(メニューの考案)
14	14	夏休みの過ごし方	学生生活最後の夏休みの活用・学園祭メニュー考案
15	15	授業改善アンケート	授業改善アンケート・学園祭についてメニューを決める。
16	16	学園祭について	学園祭役割分担・メニュー決定・販売数・衛生管理を確認
17	17	学園祭について②	グループワークでの意見交換・役割等の確立
18	18	学園祭について③	販売方法の意見交換と確立
19	19	社会体験の理解	就職に向けての再度の理解
20	20	社会体験の理解②	就職後の自分自身の想像
21	21	学園祭について④	学園祭での衛生観念の理解
22	22	学園祭について⑤	メニューの原価計算
23	23	料理についての理解	メニューを決める時の考え方(構成・季節感)
24	24	料理についての理解②	調理をする上での専門用語などを理解を深める
25	25	料理についての理解③	準備(仕込み)だけでなく、完成を思い描き準備をする。
26	26	生活習慣について	社会人になる前に、時間管理を意識し自身を見つめなおす。
27	27	冬休みの過ごし方	卒業後の環境を整える準備について
28	28	免許・資格の取得について	調理師免許の申請について
29	29	社会人になる為の準備	生活環境を整える準備
30	30	振り返り	2年間をすごして・授業改善アンケート
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	就職業界ガイド		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期	授業時間	前期30時間
担当者	山下 初音		
実務経験	—	実務経験内容	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> • これからの進路選択に向けて、業界事情や雇用制度について理解を深める。 • 求人情報の案内。 • 採用活動の傾向と対策。(自己分析や提出書類作成のポイント、面接練習など、過去の実績や情報を踏まえた受験指導) • 職人といえども一社会人。職場での立ち振る舞いやビジネスマナー、社会保険や税金の知識を伏せて身につける。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> • 卒業後の進路決定 • 社会人基礎力の構築 		
授業運営方法	講義・演習形式		
教科書	これだけは知っておきたい！面接対策&ビジネスマナー		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2	採用試験の傾向と対策/企業への訪問・連絡の取り方	企業形態別の試験傾向&対策/企業訪問時のマナー・電話やメール、書類の送り方について
2	3・4	提出書類 自己分析	履歴書作成時のポイントと記入演習/自己分析の大切さ
3	5・6	卒業生講話	勤務先の紹介/就職活動へのアドバイス
4	7・8	自己PRとは…	自己PR作成のポイント/自己の振り返り(アピールポイントを見つける)
5	9・10	自己PR作成	自己PR作成
6	11・12	志望動機の書き方	志望動機作成のポイント/業界志望動機作成
7	13・14	面接試験の傾向と対策	挨拶/姿勢/言葉使い/第一印象と一貫性の大切さ
8	15・16		面接演習(グループ)
9	17・18	一般常識試験対策	試験問題演習/解説
10	19・20	時事問題対策	昨今起きた社会的な事象を解説
11	21・22	小論文	小論文の書き方/演習
12	23・24	就業準備	職場でのマナー/情報管理
13	25・26		知っておきたいお金のこと
14	27・28	前期期末試験キャリアについて考える	前期期末筆記試験/「働く」と「人生」を考える
15	29・30	テスト返却 内定とは…	内定=終わりではない(目的を持ち残りの学生生活を送る)
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
[評価の方法]			
<p>必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。</p>			

科目名	レストランシミュレーション		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期90時間・後期90時間
担当者	白熊 佳和・今井 康隆		
実務経験	有	実務経験内容	白熊：専門調理師。ホテルに於いて料理長としてメニュー作成、衛生管理従事。 今井：レストラン・ホテルに於いて料理長としてメニュー作成、衛生管理従事。
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の総合調理実習で学んだ事を、より実践的に行う。 ・調理工程だけでなく、商品の原価計算や発注の流れ、仕込みの計画を考える事まで学ぶ。また衛生概念や運営方法も学びます。 ・様々な調理分野の調理技術も学び、知識を深める。 ・地域交流と調理技術披露の機会とする。 ・調理従事者としてサービス業務の仕事も学び、知識を深める。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調理工程の役割分担を理解し、協力的に効率よく作業が出来る。 ・カフェ運営・学園祭等を含め、調理からサービスまでの運営方法を自らが学び行動できるようにする。 ・販売できる商品の提供が、衛生的に出来る。 		
授業運営方法	講義、実習形式		
教科書	なし		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3・4・5・6	運営について	衛生観念の見直し・今後の運営・グループ分け
2	7・8・9・10・11・12	レストラン運営のイメージ(実習)	調理実習をし、役割ごとの運営イメージをつかむ
3	13・14・15・16・17・18	レストランシミュレーション①	販売に向けての準備(サービス練習・料理のクオリティ確認)①
4	19・20・21・22・23・24	レストランシミュレーション②	販売に向けての準備(サービス練習・料理のクオリティ確認)②
5	25・26・27・28・29・30	レストランシミュレーション③	学園内販売練習①
6	31・32・33・34・35・36	レストランシミュレーション④	学園内販売練習②
7	37・38・39・40・41・42	レストランシミュレーション⑤	外部販売① B班翌週仕込み、練習
8	43・44・45・46・47・48	レストランシミュレーション⑥	外部販売② A班翌週仕込み、練習
9	49・50・51・52・53・54	レストランシミュレーション⑦	外部販売③ B班翌週仕込み、練習
10	55・56・57・58・59・60	レストランシミュレーション⑧	外部販売④ A班
11	61・62・63・64・65・66	デザート	アシェットデセールを学ぶ
12	67・68・69・70・71・72	パンを学ぶ	料理に必要なパンの技術を学ぶ
13	73・74・75・76・77・78	デザート②	アシェットデセールを学ぶ②
14	79・80・81・82・83・84	前期期末試験	前期期末筆記試験(実技試験)
15	85・86・87・88・89・90	前期まとめ	前期フィードバック・後期に向けて(学園祭・カフェ運営・卒業制作)
16	91・92・93・94・95・96	学園祭の運営について①	学園祭の運営目標、メニュー、運営方法考案
17	97・98・99・100・101・102	学園祭の運営について②	運営方法の確立・商品確立(ルセットの作成)
18	103・104・105・106・107・108	学園祭の運営について③	原価計算・販売目標の確立
19	109・110・111・112・113・114	学園祭準備①	メニュー試作・写真撮影
20	115・116・117・118・119・120	学園祭準備②	メニュー試作・写真撮影②
21	121・122・123・124・125・126	学園祭準備③	商品保存方法の決定・運営確認・仕込み
22	127・128・129・130・131・132	学園祭準備④	運営確認(最終)・仕込み②
23	133・134・135・136・137・138	デザート③	アシェットデセールを学ぶ③
24	139・140・141・142・143・144	卒業制作について①	卒業制作についての内容確立(メニュー・運営方法)・役割分担考案
25	145・146・147・148・149・150	卒業制作について②	卒業制作についての内容確立(メニュー・運営方法)・原価計算・役割分担確立
26	151・152・153・154・155・156	卒業制作について③	卒業制作についての内容確立(メニュー・運営方法)・試作・レイアウトの確立
27	157・158・159・160・161・162	卒業制作試作(仕込み)準備①	卒業制作仕込み・運営確認①
28	163・164・165・166・167・168	卒業制作試作(仕込み)準備②	卒業制作仕込み・運営確認②
29	169・170・171・172・173・174	後期期末試験	後期期末筆記試験・卒業制作仕込み・運営確認③
30	175・176・177・178・179・180	後期まとめ	後期フィードバック・卒業制作仕込み
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A～C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	専門調理実習(西洋)		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次・前期・後期	授業時間	前期60時間・後期60時間
担当者	白熊 佳和・高橋 麻衣子		
実務経験	有	実務経験内容	白熊：専門調理師。ホテルに於いて料理長としてメニュー作成、衛生管理従事。 高橋：ホテルにおいて洋食調理に従事(レストラン・カフェ・宴会・ブライダル・鉄板焼き等)
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> 西洋料理の基本を復習し、高度な料理に応用する調理技術を学ぶ。 西洋料理で使用するフォン(出し汁)を活用し、ソースやポターージュへの展開を体系的に理解する。 食材の加工を含め、より高度な技術を学び様々な調理法の知識を広げる。 基本技術の大切さを再確認し、高度技術を身に付け西洋料理の奥深さを知る。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 調理師免許取得、技術者合格 調理器具の使い方や技術を繰り返し学ぶ事で、プロとして通用する技術習得に努める。 挨拶、礼儀を身に付ける。 		
授業運営方法	実習形式		
教科書	新調理師養成教育全書 5調理実習 全国調理師養成施設協会		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3・4	1年次の復習	白身魚のグルノーブル風・ボムシャトー・カリフラワーのスープ
2	5・6・7・8	基本のソース①・魚料理①	白身魚のポワレ、赤ワインソース・レギュームリュバン(アラクレーム)
3	9・10・11・12	肉料理①(プレゼ)・スープ①	仔羊のナヴァラン・スーパドサンジェルマン・技術試験課題発表
4	13・14・15・16	鶏肉料理②(ソテー)・基本のソース②	若鶏のソテー、シャスール風・新玉葱の冷静スープ・ボムドフュノワーズ
5	17・18・19・20	基礎練習・魚料理②(ポワレ)	オムレツ練習・鱈のポワレ豆苗と浅煎のソース
6	21・22・23・24	肉の下処理③(仔羊)・基本のジュ	仔羊のポワレ・基本の付け合わせ・基本のジュ
7	25・26・27・28	イタリア料理④	ラザニア・牛肉のタリアータ・ベシャメルソース
8	29・30・31・32	魚料理③(ヴァプール)	真鯛のヴァプール、ブルブランソース・オマール海老のサラダ
9	33・34・35・36	魚料理④・スープ②	鱈のポワレ、ピストゥーソース(レギュームバイエルディー)・ニンニクとパプリカのスープ
10	37・38・39・40	魚料理⑤(ナージュ)	白身魚のサラマンダー焼き・ホタテ貝のナージュ風
11	41・42・43・44	肉料理⑤(真空調理)・フロマーシュ①	スベアリのラック白桃添え・南瓜のニョッキ3種のチーズソース
12	45・46・47・48	魚料理⑥(アンクルート)	白身魚のアンクルート、ショロンソース・スープ
13	49・50・51・52	魚料理⑦・スープ(季節の料理)	アイナメのソテー豆類添え・桃の冷静スープ
14	53・54・55・56	前期末試験	前期末技術試験(オムレツ)
15	57・58・59・60	前期まとめ	前期授業フィードバック・後期に向けて
16	61・62・63・64	オードブル①・魚料理⑧	鮭と真鯛のタルタル・白身魚のうろこ仕立て
17	65・66・67・68	フロマーシュについて②	アミューズ3品(スモーク・ムース等)・状態の変化について
18	69・70・71・72	オードブル②・魚料理⑨	白身魚のヴェノワーズ・基本のソース・そば粉のガレット
19	73・74・75・76	古典料理⑩	舌平目のデュグレソース・挽き肉のパイ包み焼き(ボルトソース)
20	77・78・79・80	ラゲー料理⑥	牛肉の煮込み、ブルゴーニュ風、ヌイク添え・鱈のマリネウォルドフ風
21	81・82・83・84	魚料理⑪(オードブル)	水タコのポッシェ・サツマイモのカプチーノスープ
22	85・86・87・88	鶏肉料理⑦	鶏むね肉のフォアグラ包み・ダブルフォンドボライコ
23	89・90・91・92	牛肉料理⑧	牛肉のロースト青ネギソース・サーモンポワレ、フレッシュマトのソース
24	93・94・95・96	ムニエル復習⑫・コンポート	カワハギのムニエル、グリーンピースの煮込み・サツマイモのコンポート
25	97・98・99・100	真空調理⑨	子羊フィレ肉のニス風
26	101・102・103・104	シビエ料理⑩	鴨胸肉のオレンジ風味、ソースビガラード・後期技術試験課題発表
27	105・106・107・108	牛肉料理⑪	牛フィレ肉のポワレ、マデラ酒ソース(ウェリントン風)・クラムチャウダー
28	109・110・111・112	模擬試験⑫	若鶏のソテーシャスールソース・後期技術試験課題発表
29	113・114・115・116	後期末技術試験	後期末技術試験
30	117・118・119・120	後期まとめ	後期フィードバック・2年次復習料理3品
【評価の方法】			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	専門調理実習(日本)		
科目区別	必修科目		
実施期間	1年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	高岡 寿康・伊藤 芳浩		
実務経験	有	実務経験内容	高岡：調理師。日本料理店に於いて料理長として献立作成、計数管理、衛生管理、人材育成に従事する。 伊藤：ホテル、レストラン等飲食業界において、シェフとして献立作成、計数管理、衛生管理、人材育成等に携わった経験有
講義概要	・1年次に習得した技術と知識をもう一度再確認し、基本を中心に更に高度な内容で技術と知識の習得を目指す。		
	・季節を意識し、食材に見合った調理法の習得。		
	・基本調理操作の反復練習により、基本の重要性を理解し将来に備える。		
到達目標	・調理師免許取得、技術者合格		
	・日本料理の技術習得だけでなく、背後にある根拠や伝承された文化を学ぶ。		
	・挨拶、礼儀を身に付ける。		
授業運営方法	実習形式		
教科書	新調理師養成教育全書 5調理実習 全国調理師養成施設協会		
[講義計画]			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	基本技術の確認	基本技術の再確認(包丁技術など)
2	4・5・6	筍料理・出し汁復習	各種筍料理(炊き込みご飯・土佐煮・吸い物など)
3	7・8・9	焼き物・出し汁巻き玉子	魚の焼き物(串打ち)・蛇腹胡瓜・出し汁巻き玉子・前期試験課題発表
4	10・11・12	揚げ物・出し汁・炊飯	天婦羅復習(下処理から)・炊飯・天つゆ
5	13・14・15	懐石料理①	一汁三菜
6	16・17・18	懐石料理②	椀物・煮物・焼き物
7	19・20・21	会席料理①	先付け(前菜)・椀物(吸い物)
8	22・23・24	会席料理②	向付け(刺身)・鉢肴(焼き物・焼き魚)
9	25・26・27	会席料理③	強肴(夏野菜の炊き合わせ)・止肴(蛇腹胡瓜と茗荷酢の物)
10	28・29・30	模擬試験	出し汁巻き玉子
11	31・32・33	会席料理④	止肴(和え物)・食事(ご飯、止め椀、香の物)・水菓子(果物)
12	34・35・36	お寿司①	太巻き寿司・押し寿司
13	37・38・39	冷やし鉢	冷やし鉢各種
14	40・41・42	前期期末試験	前期期末技術試験 出し汁巻き玉子
15	43・44・45	前期まとめ	前期授業フィードバック・後期に向けて
16	46・47・48	季節料理① 焼き物・酢の物	鮭のちゃんちゃん焼き・柚子釜砵巻き・後期技術試験課題発表
17	49・50・51	季節料理② 揚げ物・煮物	茄子の土佐煮・揚げだし豆腐・季節御飯
18	52・53・54	季節料理③ ご飯・汁物・造り	茸ご飯・汁物・旬魚を使用した造り
19	55・56・57	季節料理④ 前菜・ご飯	松茸を使用した前菜・炊き込みご飯・土瓶蒸しなど
20	58・59・60	季節料理⑤	季節の食材を使用した 前菜・焼き物(秋刀魚の豆腐けんちん焼き・柿なます)
21	61・62・63	精進料理① 前菜・煮物	豆腐の野菜あんかけ・生湯葉の煮物
22	64・65・66	精進料理②	お椀・衣揚げ・里芋御飯
23	67・68・69	お寿司②	握り・出し汁巻き玉子・ネタの下処理
24	70・71・72	模擬試験	柚子釜砵巻き・鶏肉の朴葉焼き
25	73・74・75	正月料理①	栗きんとん・金平牛蒡・伊達巻
26	76・77・78	正月料理②	鰯や鯛の焼き物・筑前煮・煮蛤
27	79・80・81	鍋物	各種鍋料理(北海鍋・雪見鍋・寄せ鍋等)・雑炊
28	82・83・84	季節料理⑥	季節の食材を使用した蒸し物・焼き物・揚げ物
29	85・86・87	後期期末技術試験	後期期末技術試験 柚子釜砵巻き
30	88・89・90	後期まとめ	後期フィードバック
[評価の方法]			
必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。			

科目名	専門調理実習(中国)		
科目区別	必修科目		
実施期間	2年次、前期・後期	授業時間	前期45時間・後期45時間
担当者	今井 康隆		
実務経験	有	実務経験内容	レストラン・ホテルに於いて料理長としてメニュー作成、衛生管理従事。
【講義概要】	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次学んだ技術の応用、技術の研鑽 ・中国の伝統的な技法を理解、習得する ・現場を意識した技術、知識を身に付ける ・中国料理にも広まってきている銘々盛なども習得する ・4大中国料理の基礎の技術、知識を身につける ・日本と中国との料理の違いの知識を学ぶ ・日本に四季にあった食材を用いて、様々な料理法を習得する 		
【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・コース料理を作れる幅広い知識、技術を身に付ける ・挨拶、礼儀、衛生観念の徹底 		
授業運営方法	実習形式		
教科書	新調理師養成教育全書 5調理実習 全国調理師養成施設協会		
【講義計画】			
	コマ数	テーマ	授業内容詳細
1	1・2・3	丸鶏火入れ・ばらし方・保存方法	火入れ→ばらし方→保存方法(前菜・油爆)
2	4・5・6	応用技術①鍋・油の使い方	中国特有の調味料の作り方(口水鶏・葱油鶏)
3	7・8・9	応用技術②前菜	個々盛での仕込みの違い(前菜) 金絲海蜇皮・椒麻白油鶏・塩水有頭蝦・腐皮旬生菜
4	10・11・12	応用技術③温菜	個々盛での温菜盛り込み(叉焼・焼肉・白灼魷)
5	13・14・15	応用技術④肉料理・炒	肉の切り方・下処理・保存方法・野菜の火入れ方法2種
6	16・17・18	応用技術⑤麺料理・飾り切り	炒の復習・麺の戻し方・野菜の飾り切り・野菜の火入れ
7	19・20・21	応用技術⑥点心 蒸	粉の使い方・生地の作り方
8	22・23・24	応用技術⑥-2点心 炸	油の火入れのしかた・すり身を使った点心
9	25・26・27	応用技術⑦スープ	毛湯・清湯・白湯 上湯スープ
10	28・29・30	応用技術⑧蒸	蒸 芯の仕込み・包み方・火入れ時間・仕上がり確認
11	31・32・33	応用技術⑨灼	灼・油爆 油の温度管理
12	34・35・36	応用技術⑩魚介料理	魚介の切り方・下処理・火入れ方法の違い
13	37・38・39	応用技術⑪デザート	ゼラチンの扱い方(芒果・黒胡麻)
14	40・41・42	実技試験	蛋皮(鍋の使い方・火加減)
15	43・44・45	前期実技試験のフィードバック	試験の振り返り
1	46・47・48	前期復習	野菜、肉の切り方復習 什錦鍋巴
2	49・50・51	応用技術⑫乾物	乾物の使い方(菜膳)湯
3	52・53・54	応用技術⑬炸・炒	油の扱い方 鍋作業の確認
4	55・56・57	応用技術⑭炸・煮	油の使い方 煮込み料理の火入れ、加減
5	58・59・60	応用技術⑮点心	粉の使い方 浮き粉を使った点心
6	61・62・63	応用技術⑯飲茶	中国茶の飲み方・種類・効能
7	64・65・66	応用技術⑰前菜	コース料理の前菜盛り合わせ
8	67・68・69	応用技術⑱スープ・炸	コース料理のスープ・
9	70・71・72	応用技術⑲メイン	コース料理の肉、魚料理(器、切り方)
10	73・74・75	応用技術⑳ご飯・麺	コース料理の麺・飯 盛り方 提供方法
11	76・77・78	応用技術 コース料理	前菜・メイン・麺飯・デザート
12	79・80・81	応用技術 コース料理②	個々盛でのコース料理提供・料理の仕上げ方
13	82・83・84	2年間の復習	各班で1皿仕上げ
14	85・86・87	後期実技試験	料理1品
15	88・89・90	後期実技試験のフィードバック	フィードバック、1年間のまとめ
【評価の方法】			
<p>必修科目は全て試験を実施します。60点以上を合格、60点未満を不合格とします。成績の評定は、試験の成績・出席時間・授業態度・課題の完成度や提出状況・実技等に基づいて総合的に行われ、A=優・B=良・C=可・D=不可の4段階に評価されます。 A~C評価を『認定』、D評価を『不認定』とします。</p>			